



^13
3892



門へ13
3892
巻

一葉庵戲作
後齋英泉函

千里火國
不詳

善惡道中記

人間一生獨案内

頂恩堂版

善惡道中記序

振古の聖賢ハ世を友善ニ後生迄を憐レヨリ善
 悪邪正の道を説をいッテ世話と云々勿レ獨
 慎知を守ル者ハ德行を樂ミ貧富の際ハ惑ハズ
 于テ吉凶を天ハ儘それハ分を量ラズ是ガ事ナシ
 是を知命の達者と云衆人多クハ是を悟ル以テ惡
 人奸富の榮小誇リ善人多ク貧小剛窮ニ徳を
 失フ者を見てハ幸と不幸の地を換ル天命の

理を通曉さば一に道不迷ふを案内不立く教諭不便と云ふ。書籍ハ路の標あり。墨翟と云ハ岐道を見く。悲しと泣くも迷ん事を思ふ。十善街道三惡道右欽左欽彼方此方問ざる時ハ必迷ふ。惑ふハ道不闇さ故あり。克本善の道を尋て巡り遠くといふ。名聞利慾の捷徑不入と則行路難山ふもあはば川あり。いづれ人生の半腹不在と云抑道の善惡も

知れば其理を以て押と云ふ公道人情兩たつ。全きまの爲事終一人情全け公道を欽公道全れば人情を欽各道必達する所と情不通る所不儘して其性的と天命のそ智者仁人の適を以て自其道必適く。倘性変を知者盗跖が百年の壽ありとも短くと顔子が三十二年の天も長くと云ん。欽鶴の千歳ハ猶短く。蟪蛄の一時の期長くと云ん。只是変を知る時ハ貧しくなれども富むが如く是

事を知らざる時を富と見ども貧と見如し此兩
岐を悟らば一に浮世の旅小往悩を歩行あらぬ
経を讀文選小行路の詩あり人生天地の間百年
孰能要せん頰と石を敵火の如くと長に浮世小
短の命往も光陰還るも月日仇小遇を惜氣
も如く暮を六遺感ふあらばや人間の一生八腐
たる長羊の如く指底の澤庵大根のおと後
前までとを正味ハ僅五十年の内外を出る

喜怒哀樂なり一々費は月日を筆ハ笑
て暮を日を稀なり是を思ふ一時の懈怠を
毛毳を盡し嬰童克愛小用心して聖賢道
小往方の本海道なり赴き務く教をばはる
者必も良民とあらん寧驛路の道伴
を撰んしり獨案内小勸善懲惡の一端
ともなはん欲と善惡道中記と

題を事志らるる

天保十四年歲在癸卯
秋閏月稿成同十五年
新春發兌

江戸楓川之市隱

一筆茶主人題



原本善惡道中記の飛雄亭の著述也大小世小行と云宝曆六年丙子の春
の板之繪番と小冊と合見とす小綴て発市也其後天明寛政の比に至り桃栗山人
校發奔の初名あり大通獨案内と題して飛雄亭の作意不似ひて繪番と冊子と
合見とすあり戲作ありま山東京傳戲作事悟道獨案内といふも是亦
の草子小基まの之豐好先哲の妙案まらふはといふも皇霜くくうりく
流行當時の人情ありある章も少く今將其趣向より新戲作せし拙著也

人間一生 善惡道中記

一筆茶戲作

發端

爰小拙き秃筆を採て旅の耻と俱小書捨せし人間一生浮世の旅日
紀四季の國境小十二月の宿次あり初春の門松一里塚の誓言一期の
榮枯得失浮沈の各所旧跡の如く人生僅五十里の驛路と下場の後
定れも四十圍五重の知命老の坂道小登り下りの難所係り古
來稀ある七十の峠を越へ六定宿の泊りも近く先達の原行駒の
本馬輕尻歩行の善しりも早花脚古郷の途世活表覺て後生大
事と經ども金も歎し小命惜く六日限の便りも金便りも
形もくも死八十の覺漫で行ぬ老驍の浮世小捨れ非と目も
毒命ありても是事とまらぬは是も短きもの指を屬て筆も六
長き月日の早くも立て姓を傳せども止るもあらず明日の今日

ところを翌日川の氷絶が
 流し通すの八重衣を捨
 夫如世より先臨小園守も
 むねは形を忘れて悔
 事のは馬が小ののり
 場中も怒を度後上も老の道
 中仕海を絶を性まをすか
 ま小油断のまをなれ道
 向を場小空に雷の旅行
 運ま小似れぬも雲助を産
 早くごろ附先船を却て
 り匹此を降る雨他事の
 道つれ世情短れ小報謝
 の木災泊の小白鬼の苦
 勞なれ



川苗小路用をそとて一布子を旅
 多の患あり若の梅橋より老の
 宿限も風雨霜雪を凌ぎ往の
 遠の道近きもまじりぬ多幸
 不幸運を天小供へ掃廻報
 の世國旅行老只世の旅の適
 身の上の関着助ののり士頃
 喉の歌路の鈴小の約の
 と胸の端綱八延まは浮世を
 後る川就小助昔徳悪の法
 偷し二世因果を引松中親
 面の理を復く只人生一朝の
 小本街道一教の捷徑中
 路不傳上二度笠を換ちよふ



●真直まぢかうむり質素しやくそ儉約けんやくの吹かぜ也なり 合あ相いをまままとい

旅たびはつづれの音ね人をひと案内あんないとしてして懐なつ思おぼのつとを

杖つゑうて油あぶら酌しやくあく道みちをまちりてして往ゆ若わか六む

西さい統とう山さん安あん樂らく寺じふらぶと云いふは

世よ小こいふ士し能のう人にん六ろく人の魚うま

さこのいふあは油あぶらひのあはぬ

頭かぶありありちちままるる人ひとをを守まもりてして捍たご

ててもも墜おせせままささしし油あぶらひひああくく船ふね人にんをを

のせえ船ふねの慶うらやまらんとしし油あぶらひひせせびび乳ちのち人にんの

須す是ぜあは初はつ見みの廻まわりり怪け杖つゑををままちち

さるさる油あぶらひひああくくままははもも目めままくく

さるさるこれこれねね髪かみををええるる流ながりり

古こ伊い中ちゆうもも油あぶらひひ大だい款くわんととまま

家いへをを守まもるる火ひのの元もと油あぶらひひああくく

士し八はち勅てう油あぶらひひああくく農のう人にんのの耕かう也なり也なり

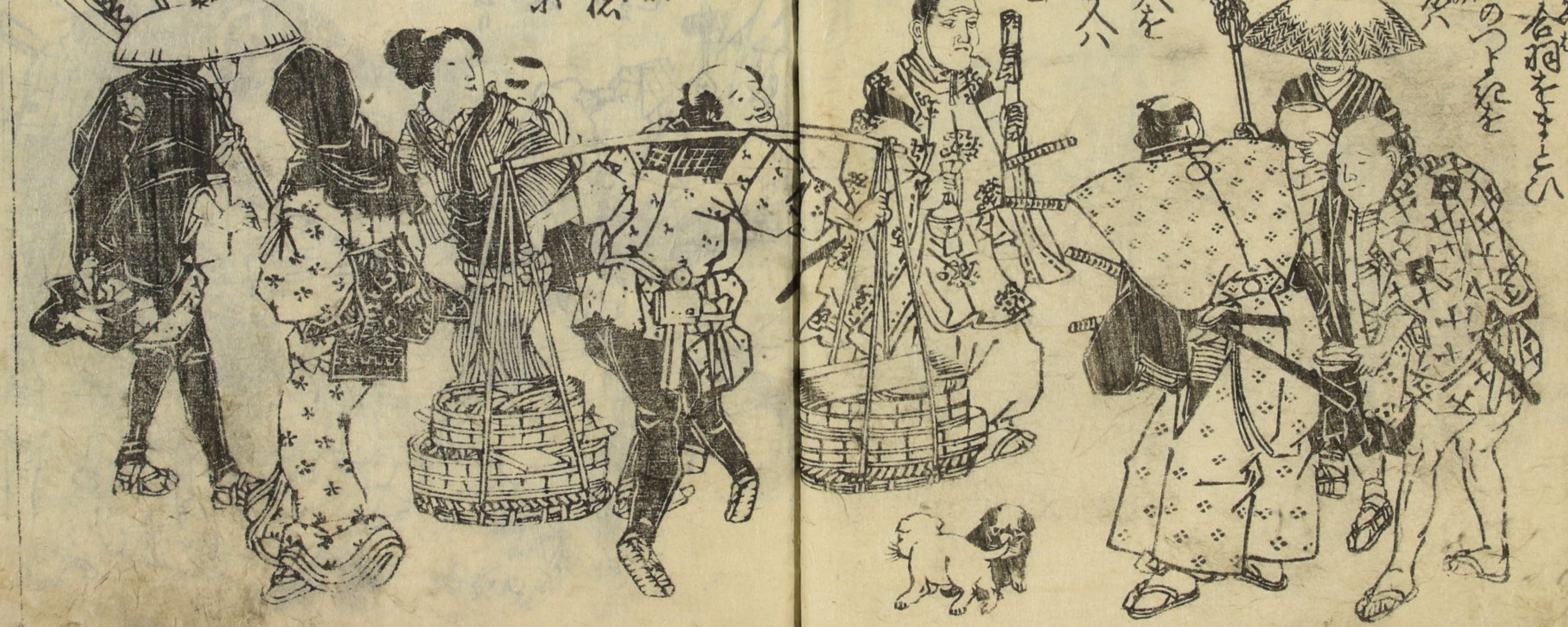
油あぶらひひああくく穢せい人にんのの持もち油あぶらひひああくく

商あき人にんのの後ご世よ油あぶらひひああくく番ばん人にんのの安あん人にんの

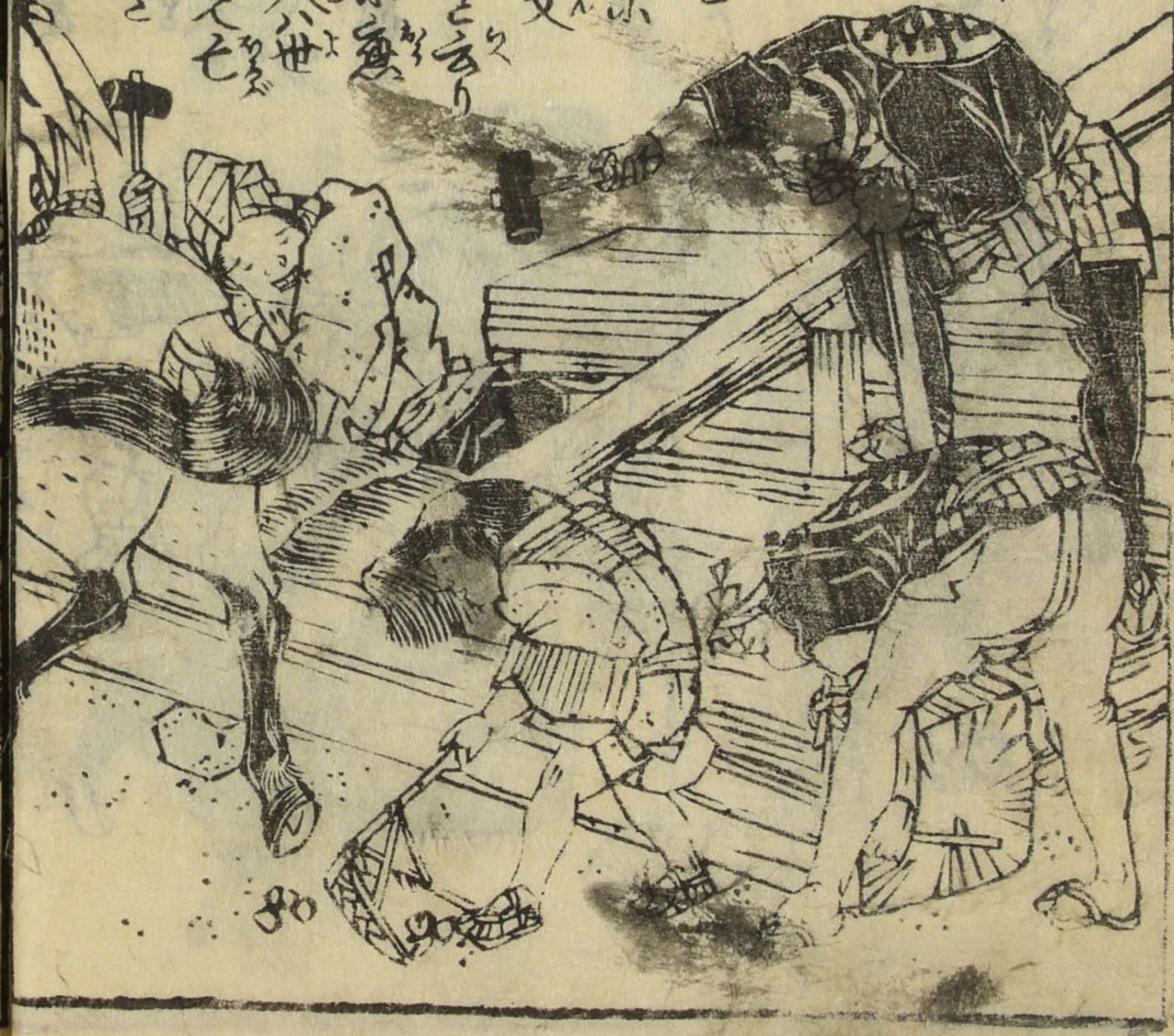
首くびのの油あぶらひひああくく油あぶらひひああくく油あぶらひひああくく

車くるまのの油あぶらひひああくく崩くずれハハ觸ふ小こ

油あぶらひひああくく油あぶらひひああくく油あぶらひひああくく

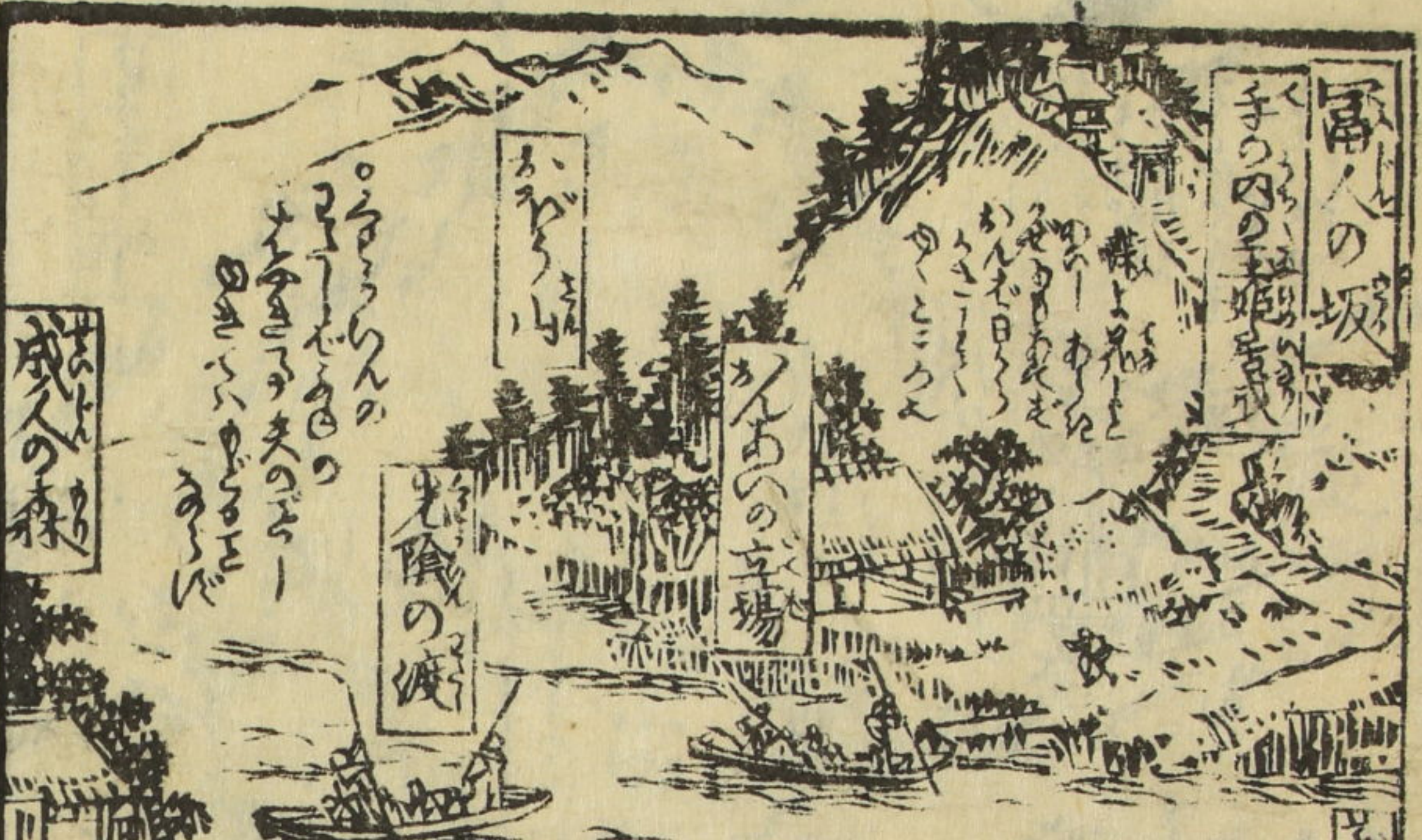
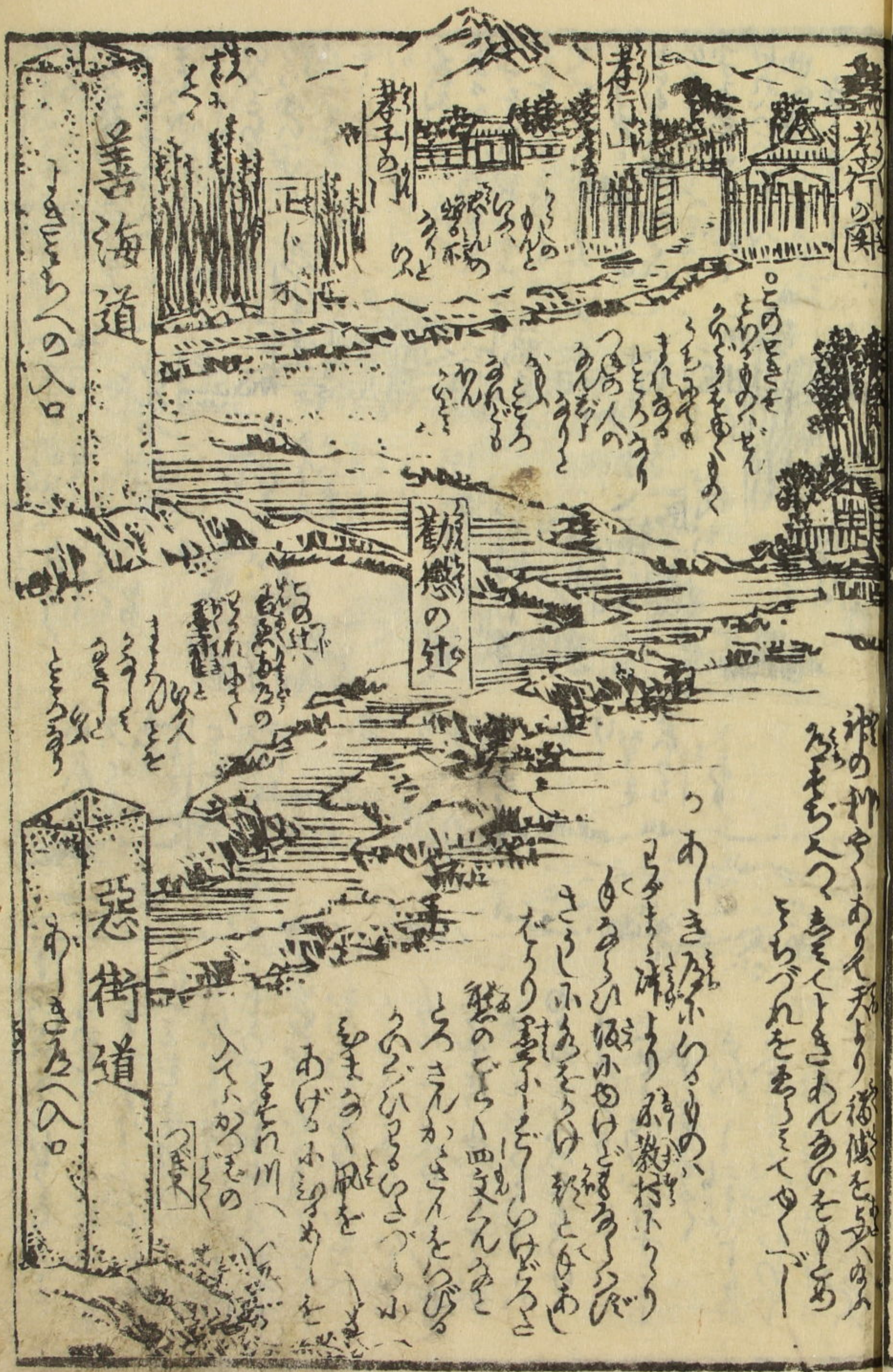


■五兩のち定めお場はあれども
 常小盛小入と備をめぐり
 きねぬやう小持のべ一非我の
 密更小七取分の首代は堪忍
 の半減を坊へ倍へて空罪を
 託る定とあり浮世を三分存と
 安賣小たる者阿れは春宵一刻の
 千金の僕と高なる雅人あり文
 字小千金の並成お供へて古と云り
 常小油断と堪忍とを守り小意
 しく主る所を勢く苦味多く人世
 翻をせよへて子孫の栄えと守りて七
 るのを情こほふ義を主へ冷漢と
 るてを情こほむ世の世を主へて



不他あん子を情を商人ハ
 金まのりを主へて撒るる子を
 情を言ふ荷を賣るを主へて腹
 を教を打るを情を牛ハ耕他の助と
 るてを主へて黒闇とる一か
 正を情大い守を主へて倉弁
 こそ情猫ハ靴を主へて竈木糞
 するこそ情猪ハ肉を告を主へて鴉焼と
 るてを情を鳥ハ靴を觸ることを主
 たりて情をあくましてこそ情は情は情
 獄といふも主るとる情を解はしめてや
 世の中の人各五常の道を守るを主
 たりて其情を情ハ聖人の教ふりて
 あの道中犯の大意あり



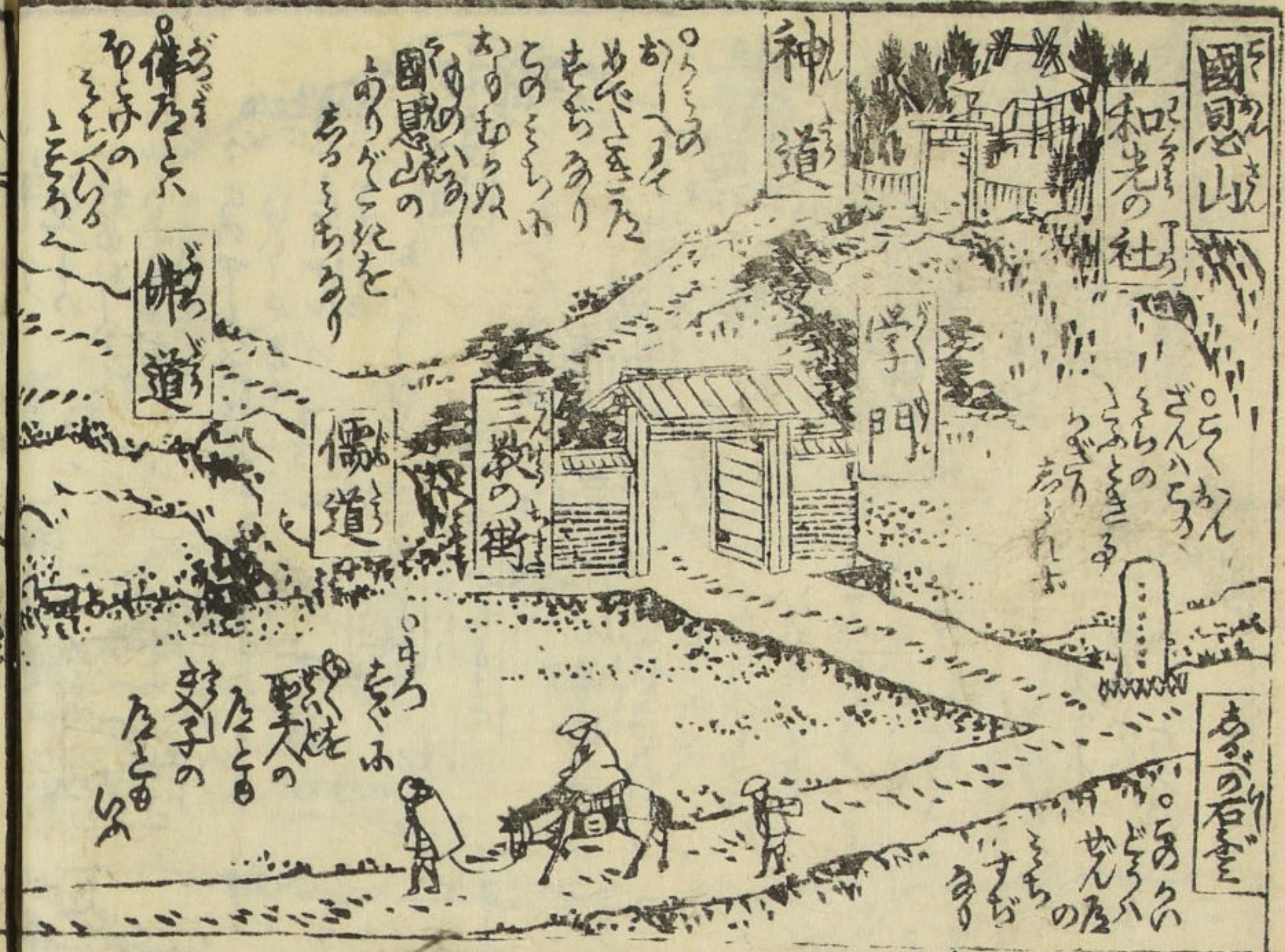
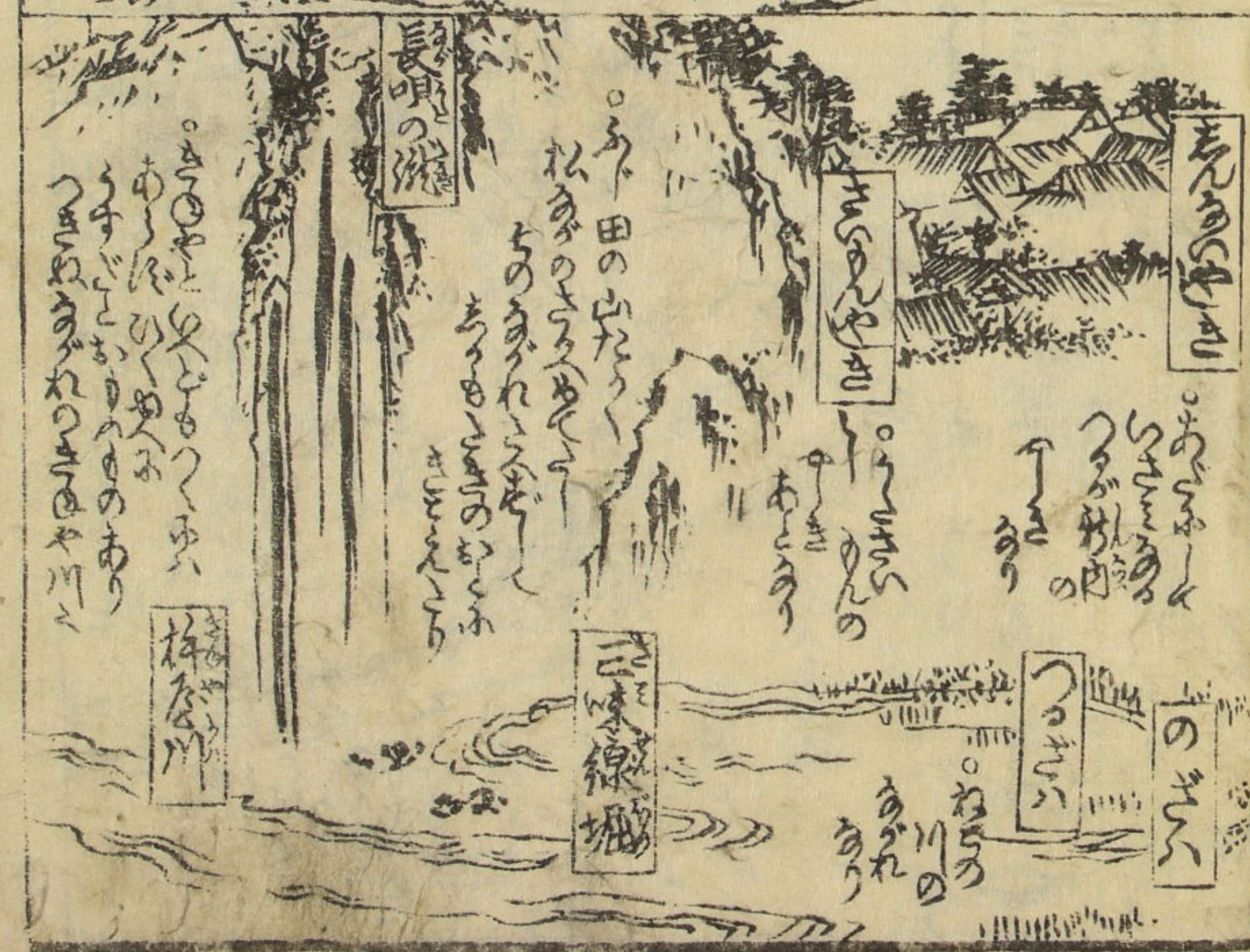
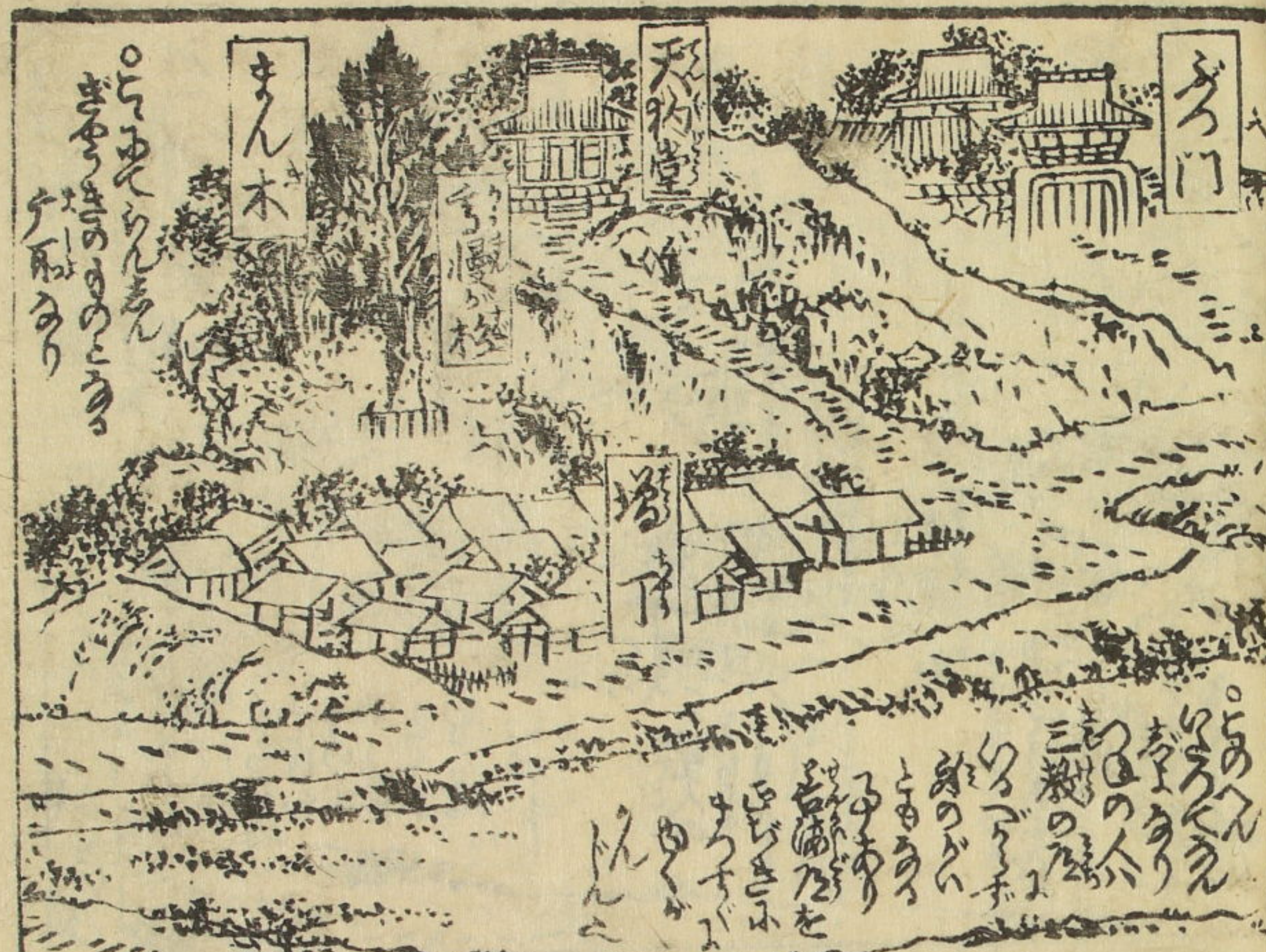


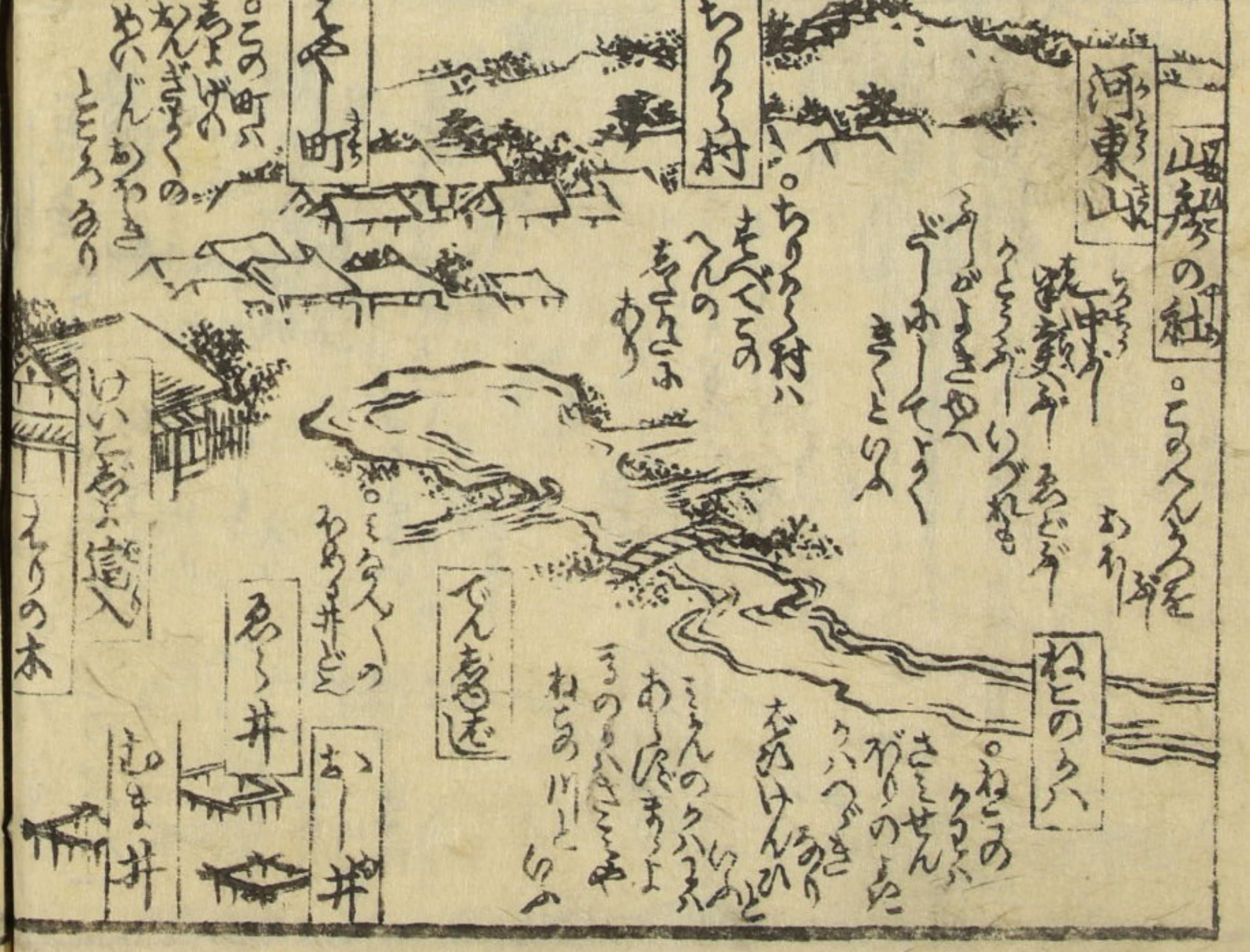
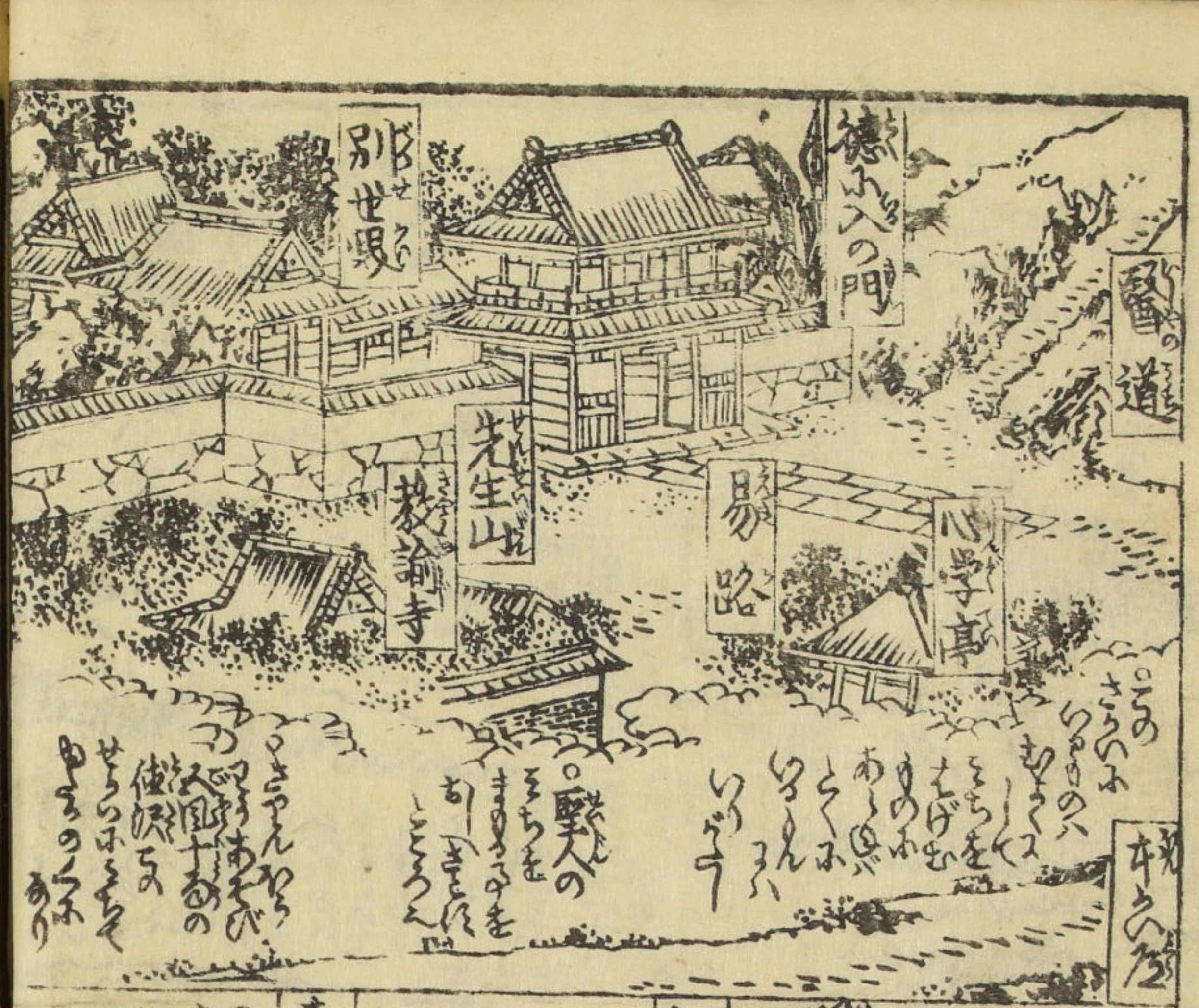
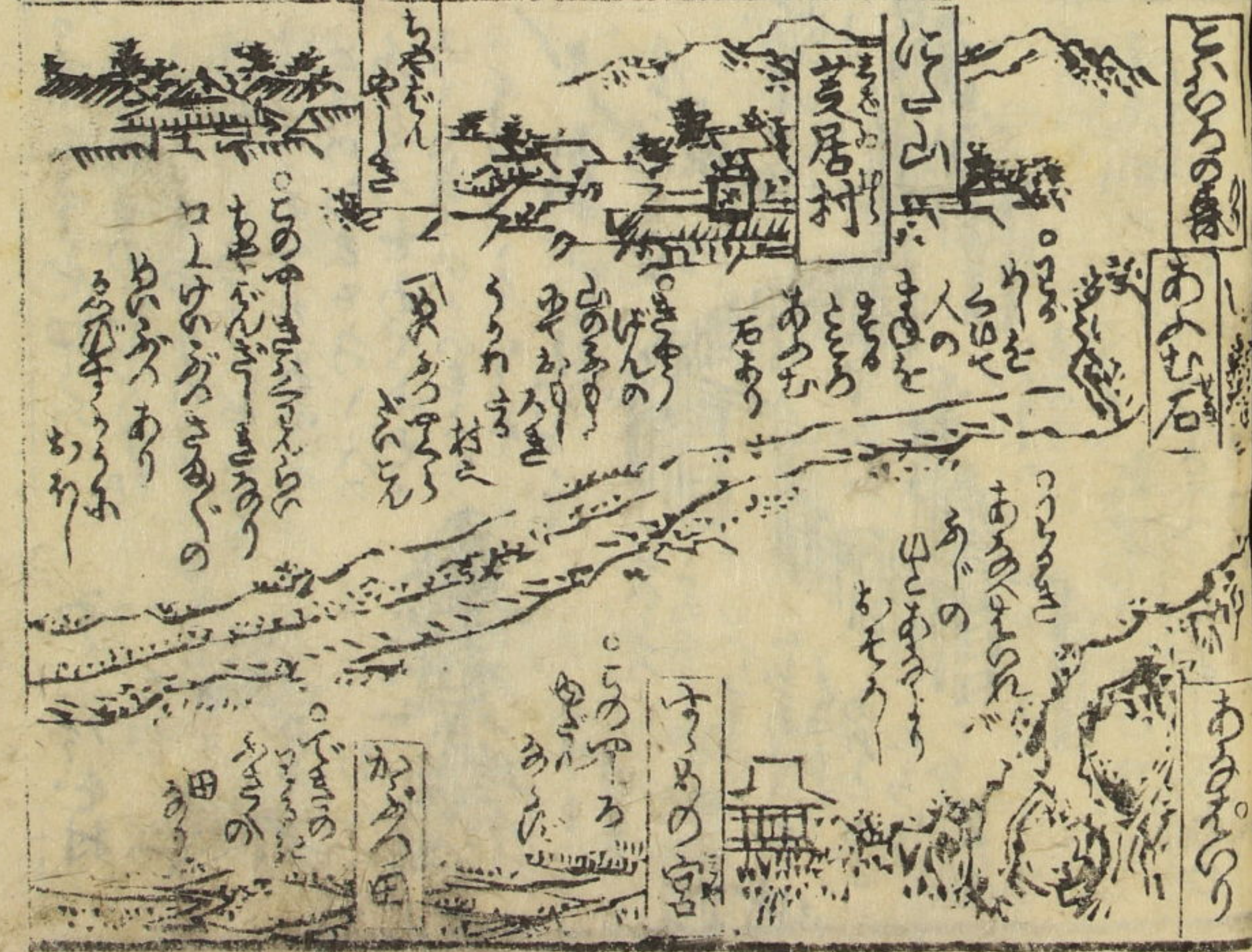
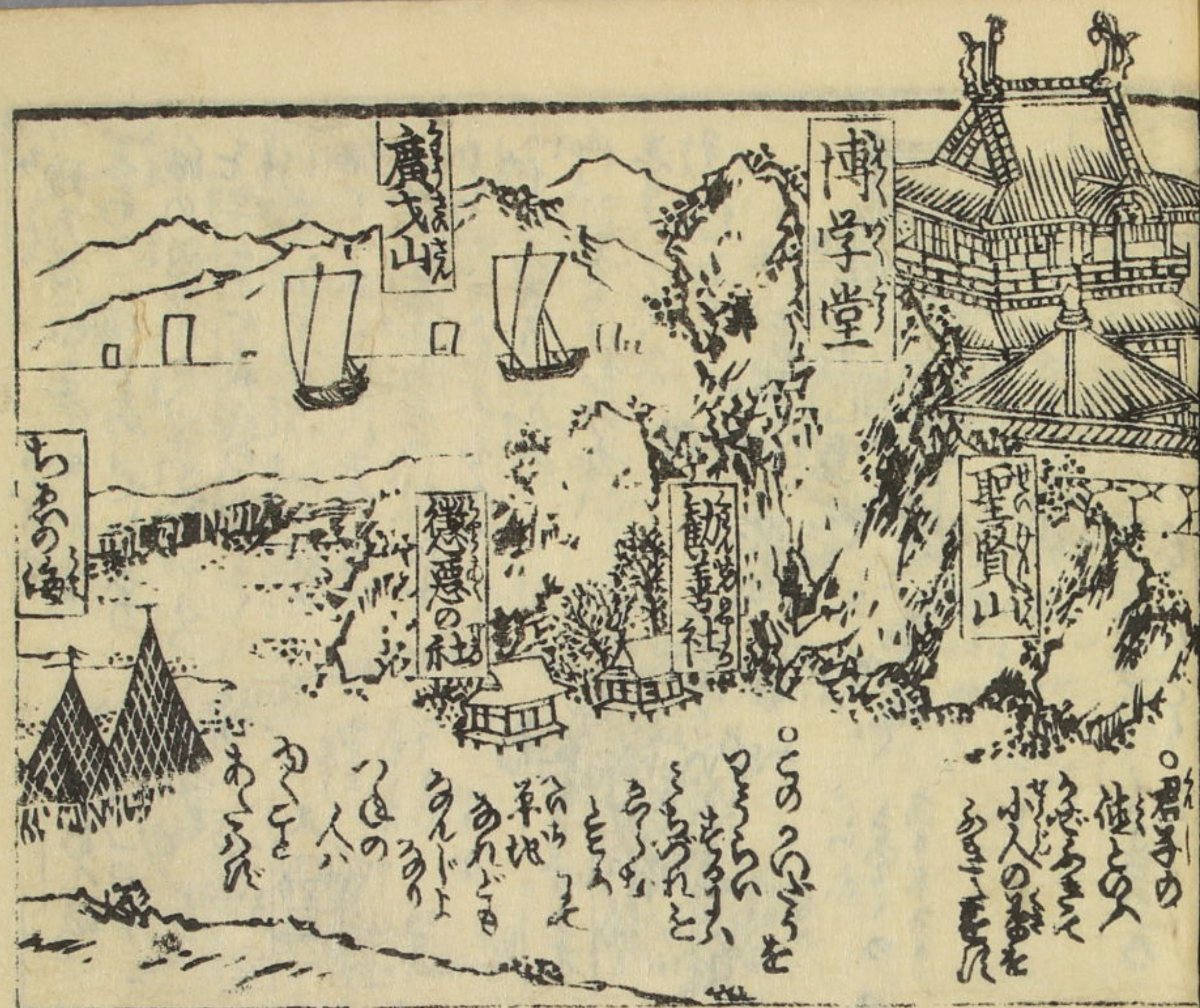
善海道の入口
 勸懲の地
 孝子の山
 成人の森
 先陣の渡
 富人の坂

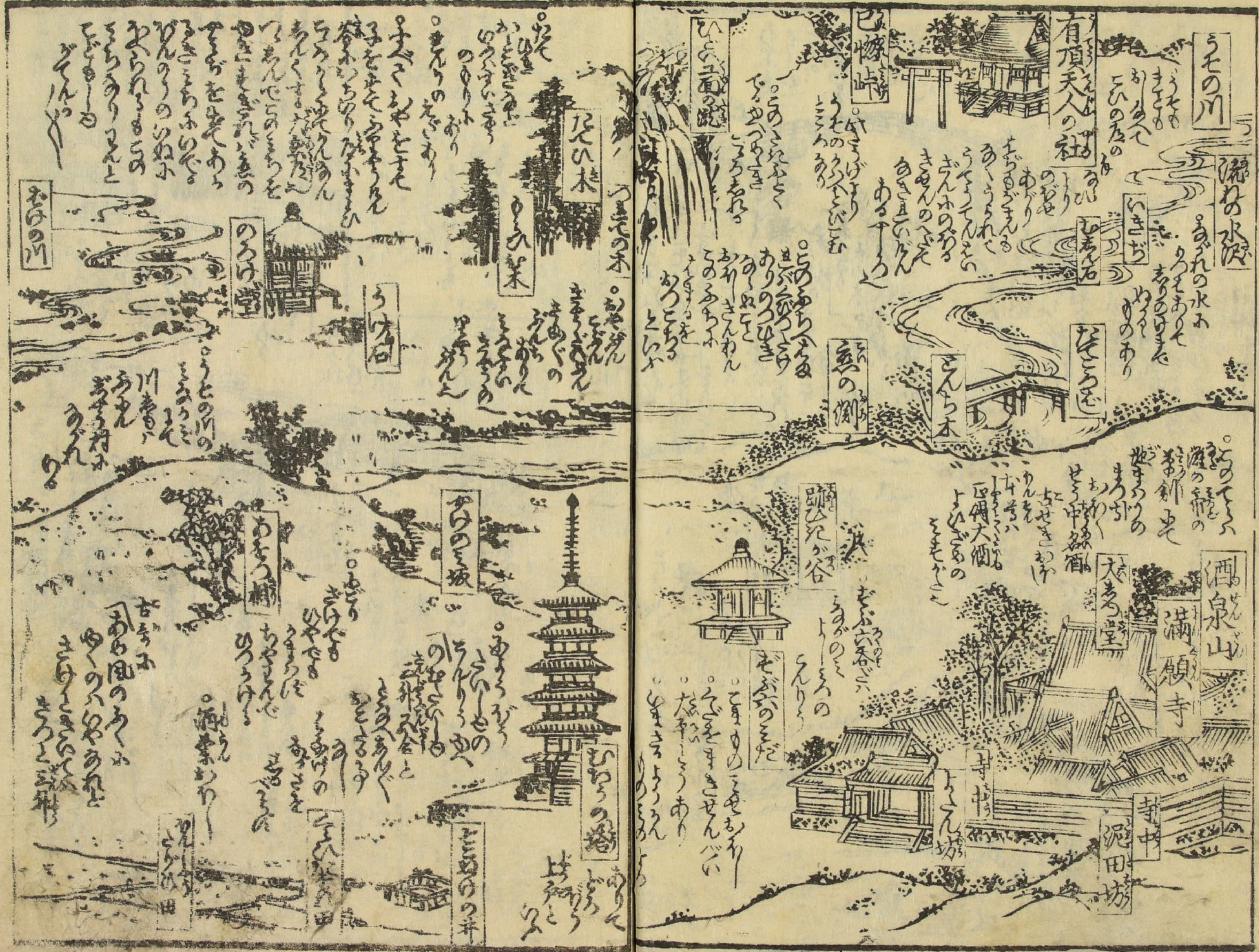
善海道の入口
 勸懲の地
 孝子の山
 成人の森
 先陣の渡
 富人の坂

成人の森
 先陣の渡
 富人の坂

成人の森
 先陣の渡
 富人の坂







うその川

有頂天の社

巴郡

瀧の水

いさご

むらさ

むらさ

むらさ

むらさ

酒泉山

満願寺

大善堂

大善堂

大善堂

大善堂

たてい木

たてい木

うけ石

かひの坂

むらさ

むらさ

むらさ

おの川

おの川

のりけ

あまの

あまの

あまの

あまの

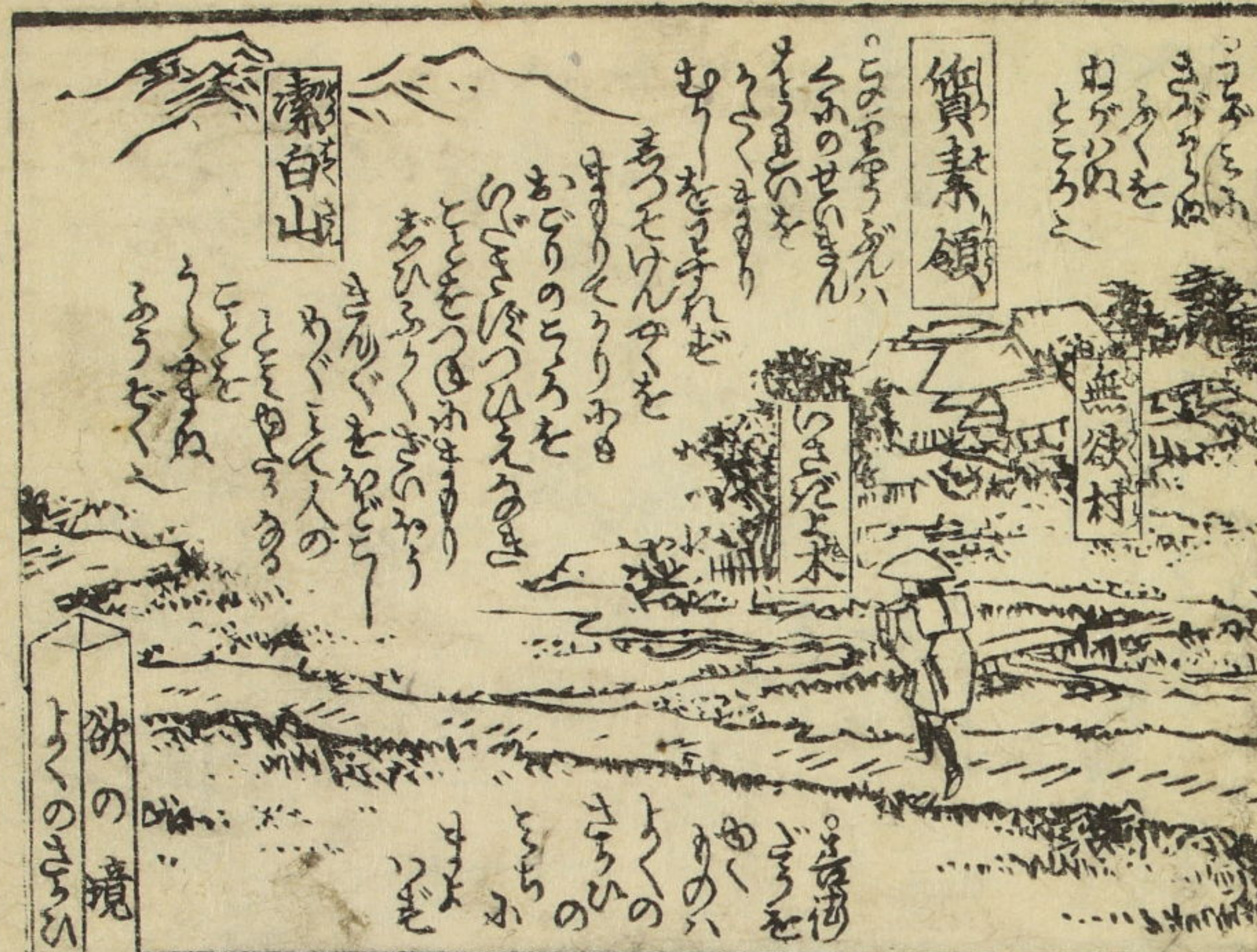
いさご

いさご

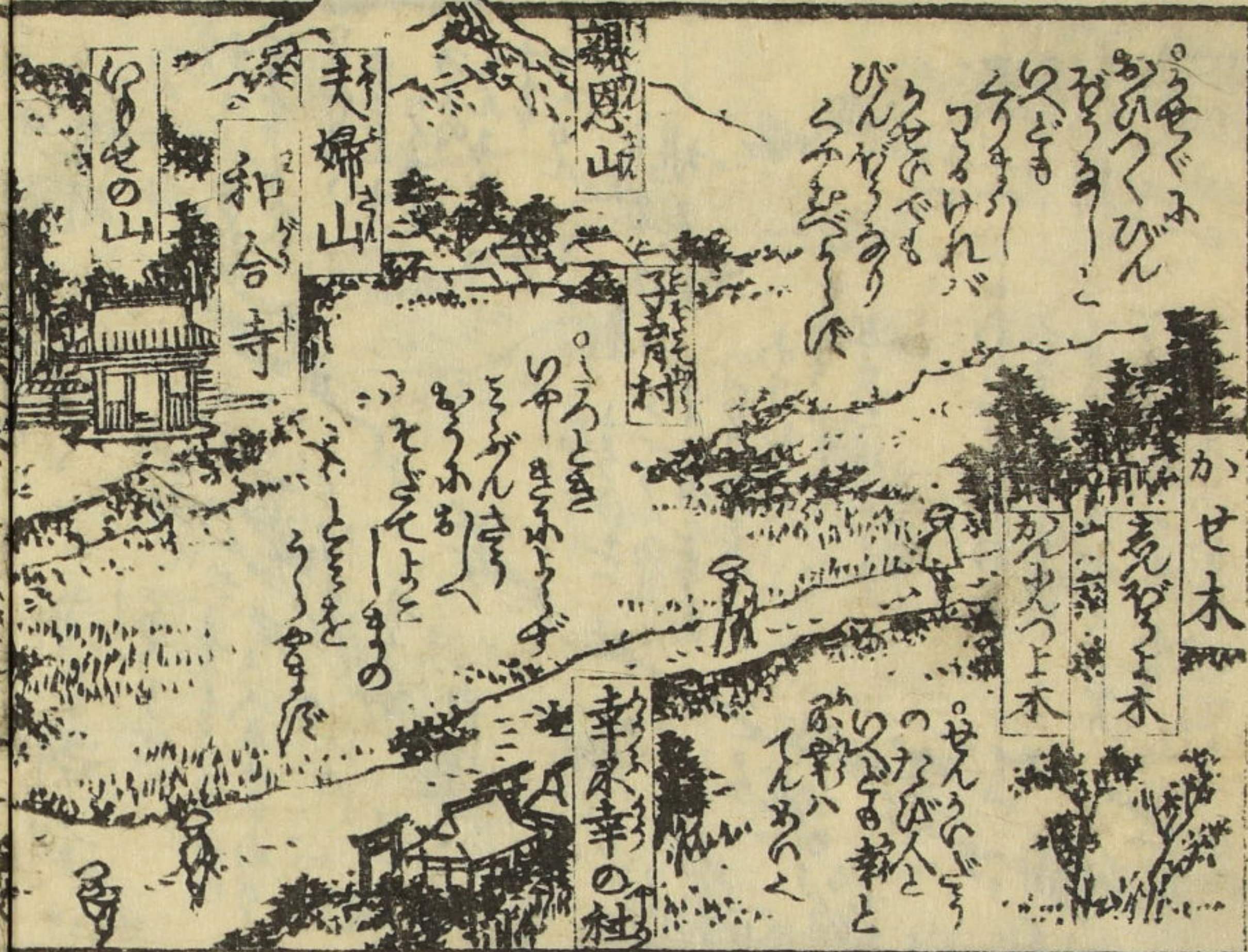
いさご

いさご

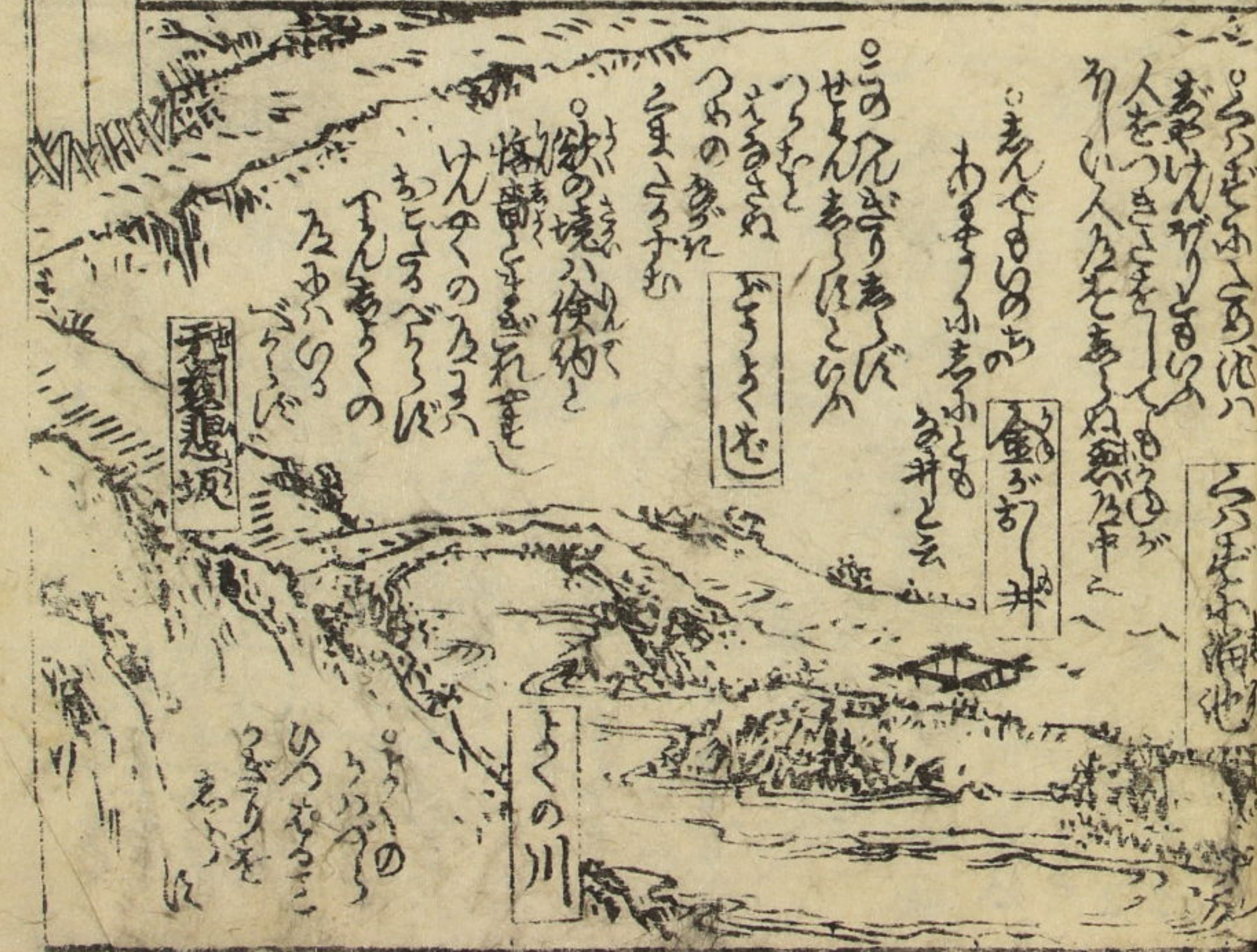
いさご



賀素領
 無敵村
 飲の境
 賀素領の
 無敵村の
 飲の境の
 賀素領の
 無敵村の
 飲の境の



和合寺
 幸来幸の社
 かせ木
 和合寺の
 幸来幸の社
 かせ木の
 和合寺の
 幸来幸の社



和魂坂
 よくの川
 和魂坂の
 よくの川
 和魂坂の
 よくの川



五重の放蕩
 宗好院
 酒狂山
 動樂寺
 五重の放蕩の
 宗好院の
 酒狂山の
 動樂寺の

○のんいんまこと
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
これまのまのまのまの
あかんのまのまのまの

けんやく道

○の坂
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの

油断坂

ゆんたん坂

○油断の坂
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの

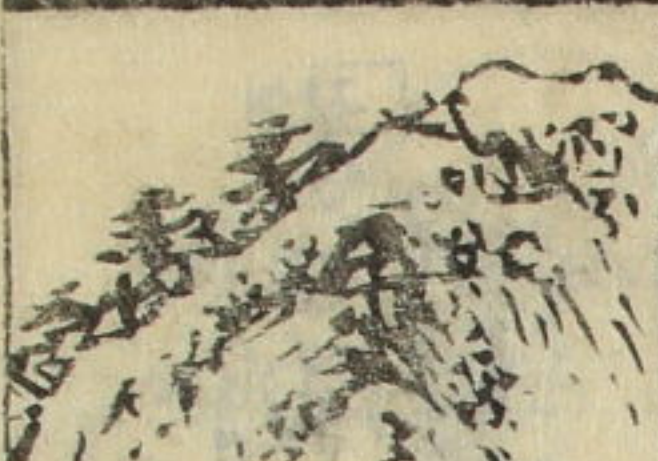
慈悲の井

○慈悲の井
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの

失墜の木

○失墜の木
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの

節儉山



○節儉山
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの

人の木

格番道

格番道

○格番道
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの
あかんのまのまのまの

飯林村

非義悲堂

塔又村

大秋天

垂跡の非道明王

右のふ小けんどん

邪見のつらさを持のひ

あまのりえありとてをえ

あつたつあえさあつたつ

あまのりえありとてをえ

あまのりえありとてをえ

あまのりえありとてをえ

あまのりえありとてをえ

あまのりえありとてをえ

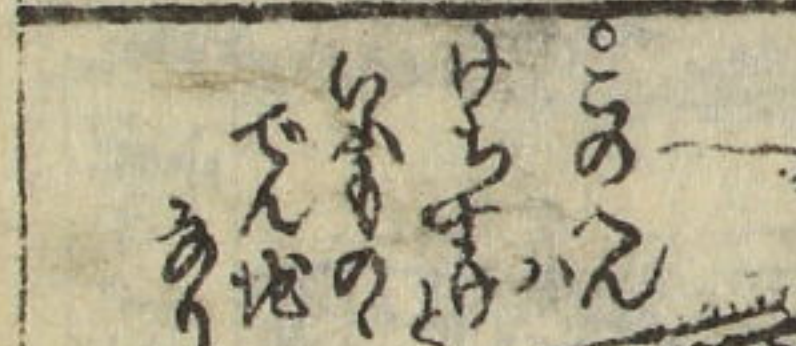
あまのりえありとてをえ

あまのりえありとてをえ

あまのりえありとてをえ

○あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ

欲面田



○欲面田
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ
あまのりえありとてをえ

格番谷



あまのりえありとてをえ



身之城郭

○米の
まきうを
てんめいを
うめい
うめい
うめい

獨慎知が嶽

○ひらきを
つしむてを
あるとまらあり

出世の道

○この山が
この山が
この山が
この山が

儂倅山

○あつた
あつた
あつた



仕合大明神

○しんちが
しんちが
しんちが



大通神社

○この池
この池
この池

果報山

○この山
この山
この山

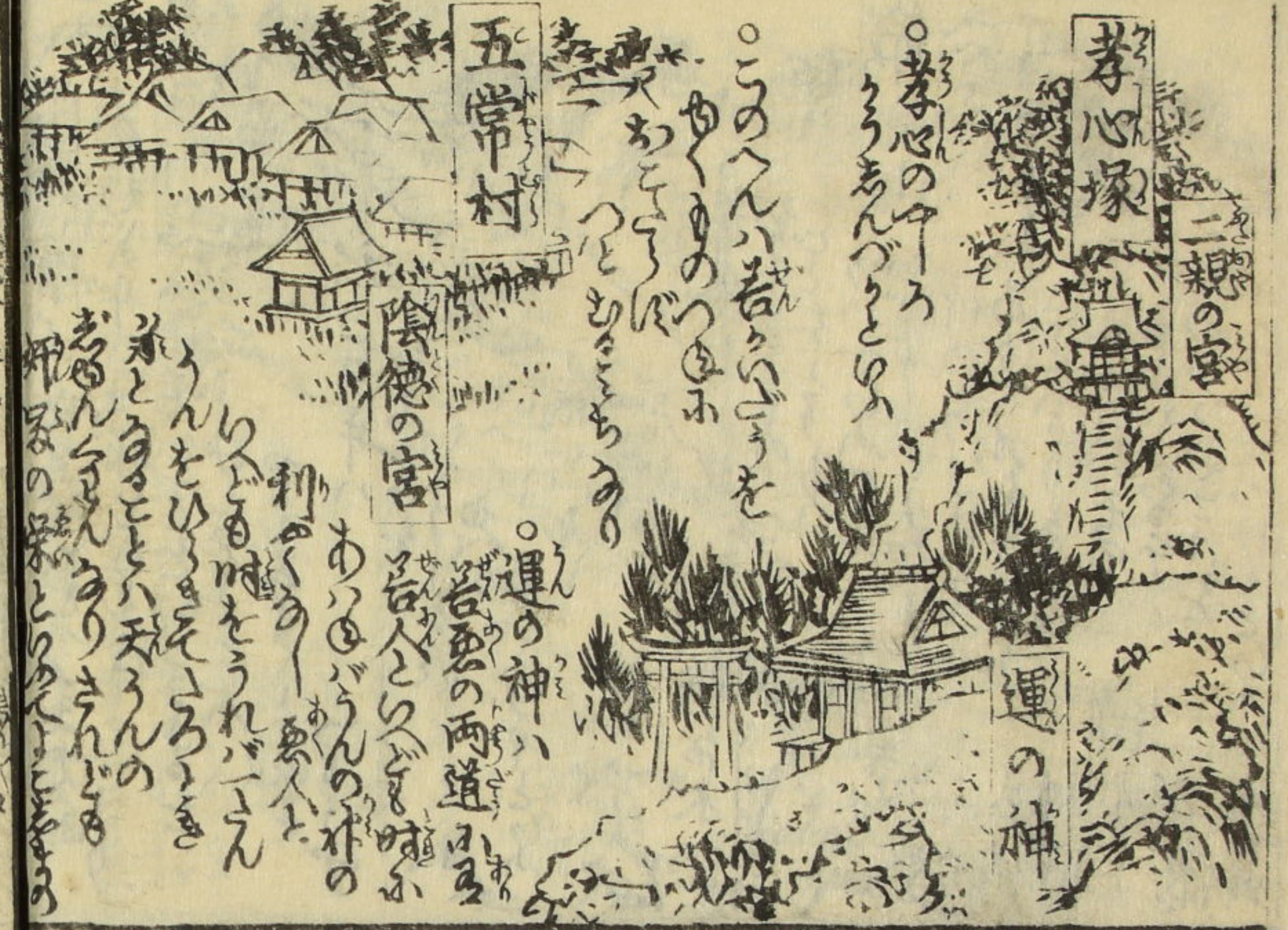
耶ノ仕越

○この山
この山
この山

○わろを
わろを
わろを

横むらびの乃

○この山
この山
この山



孝心塚

○孝心の
孝心の
孝心の

五常村

○このへん
このへん
このへん

陰徳の宮

○この山
この山
この山

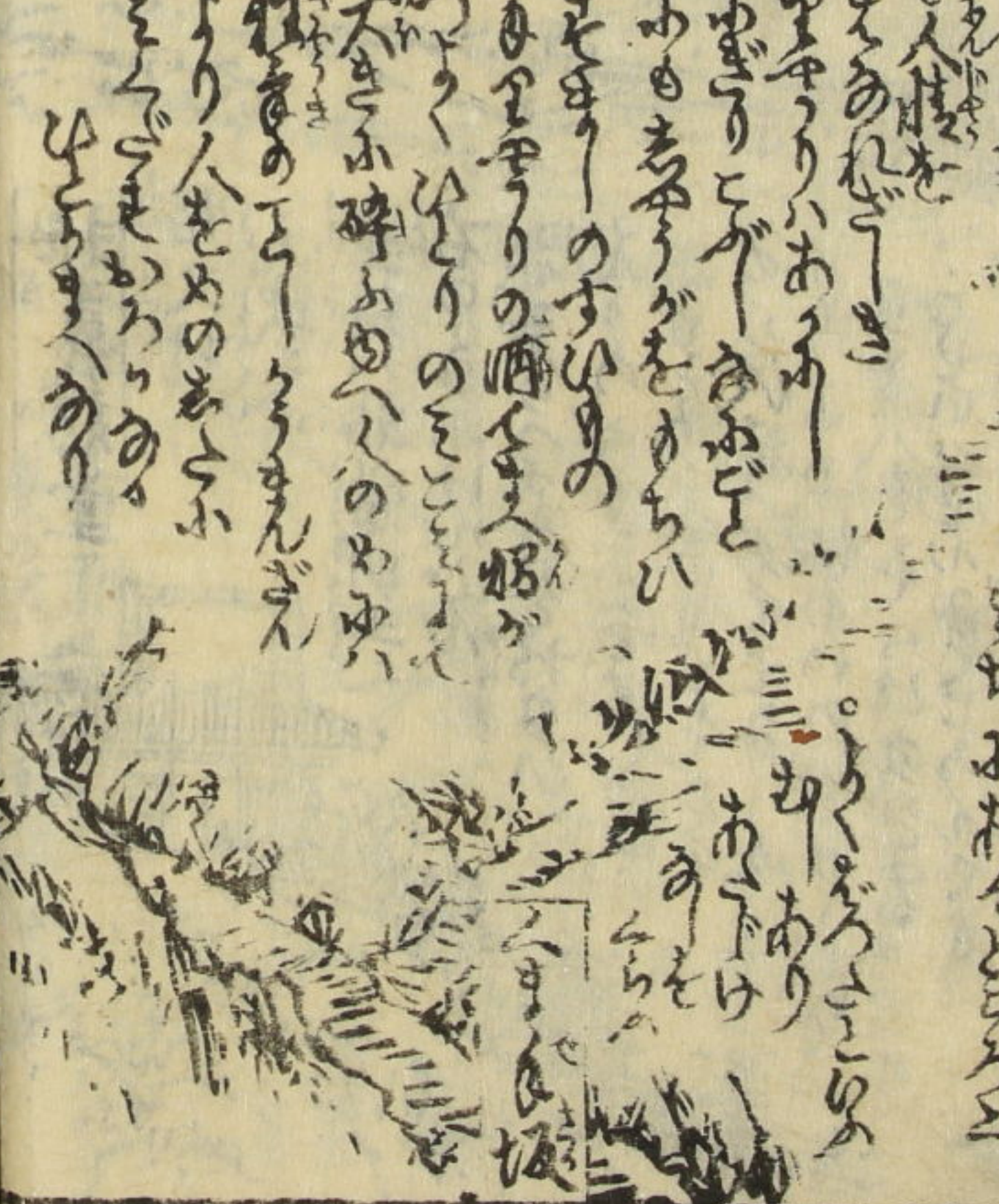
運の神

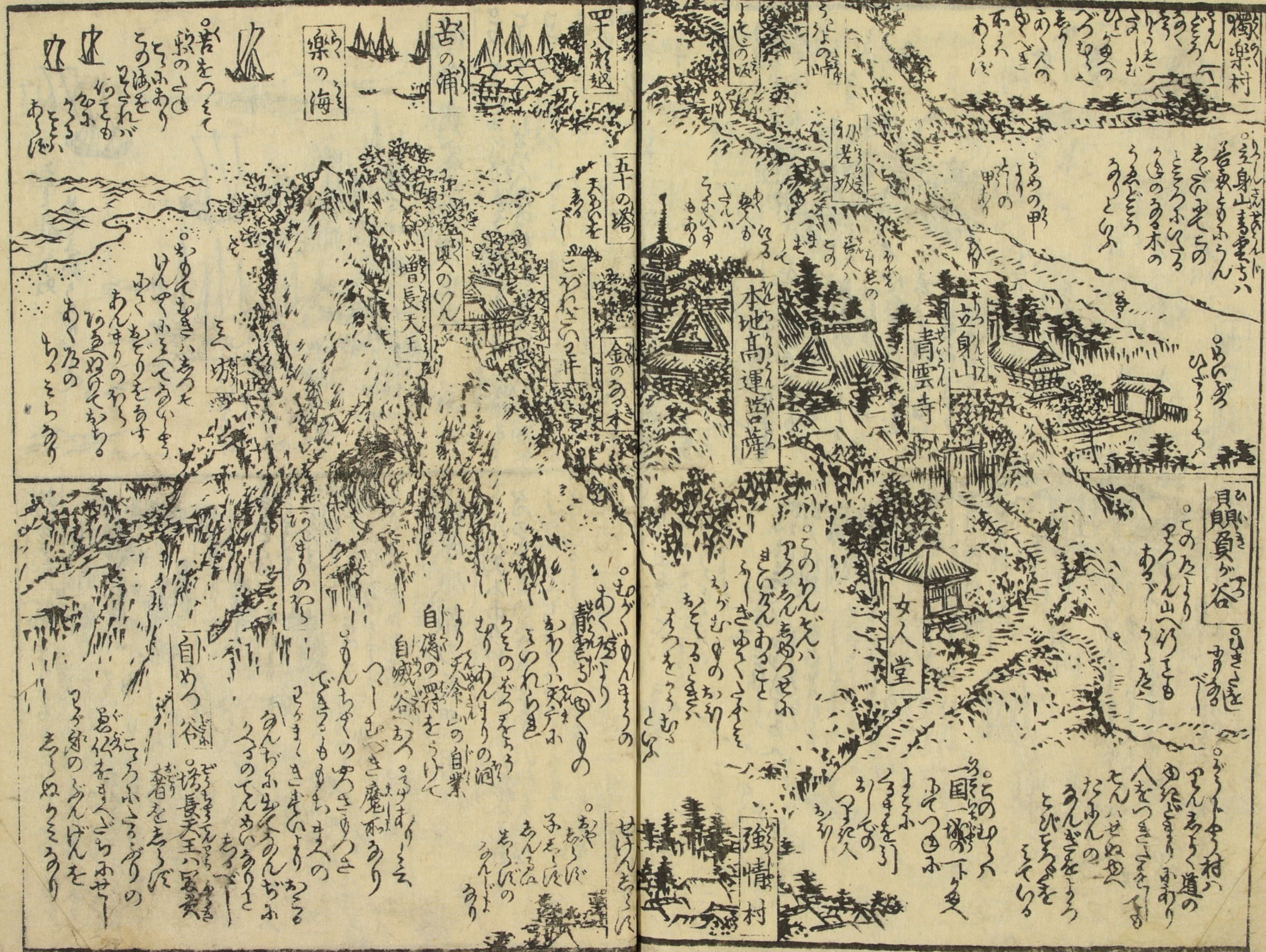
運の神

○この山
この山
この山

憎亭

○この山
この山
この山





櫻樂村

○身山まきんが
○身山まきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが

目黒谷

○この谷より
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが

○まきんが

○まきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが

立身山

青雲寺

女人堂

本地高運菩薩

強情村

甲入

五平の塔

金の木

せけん

苦の浦

興人の山

自徳の野

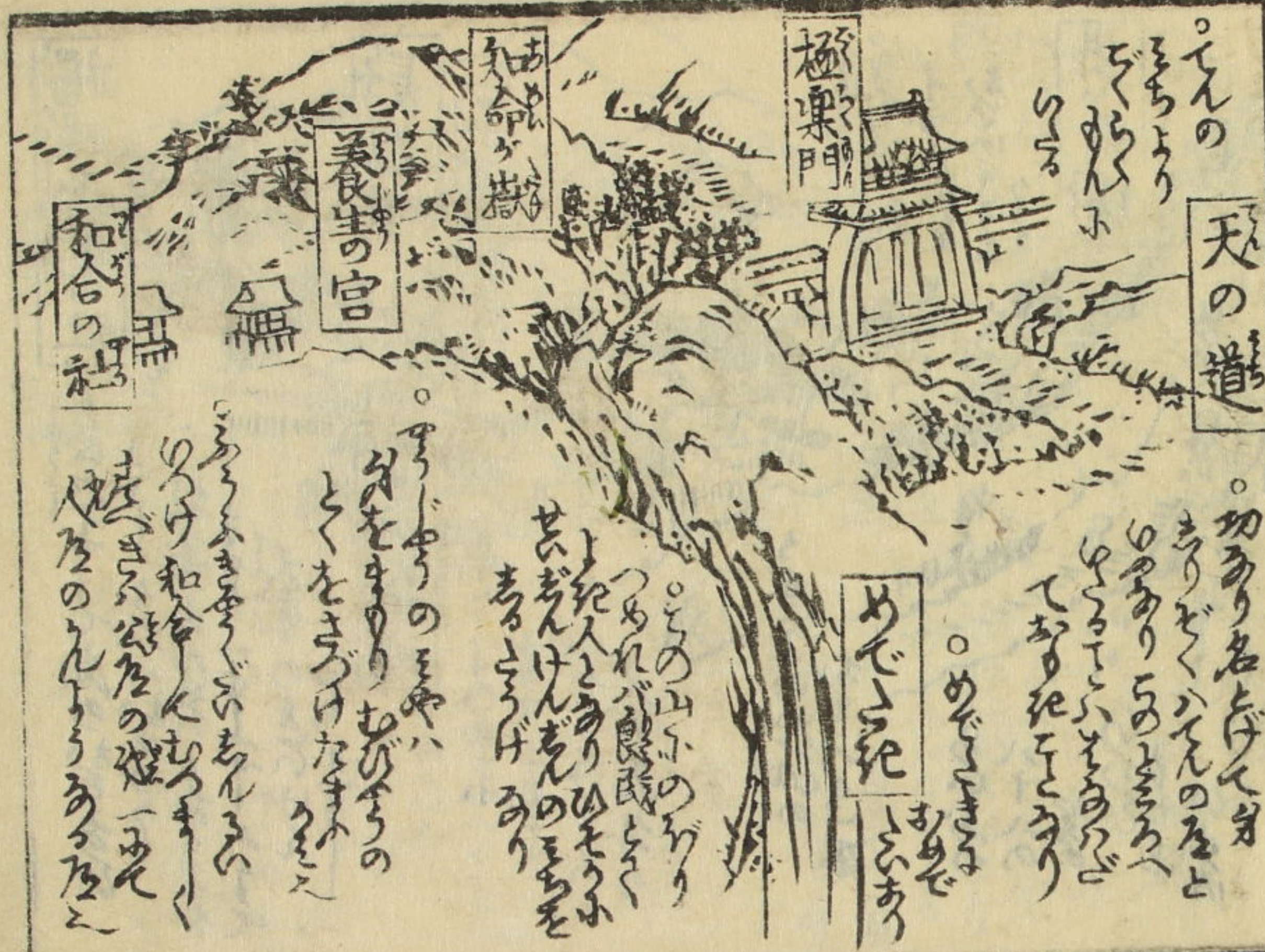
樂の海

自りり谷

中

○まきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが

○まきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが
まきんがまきんが



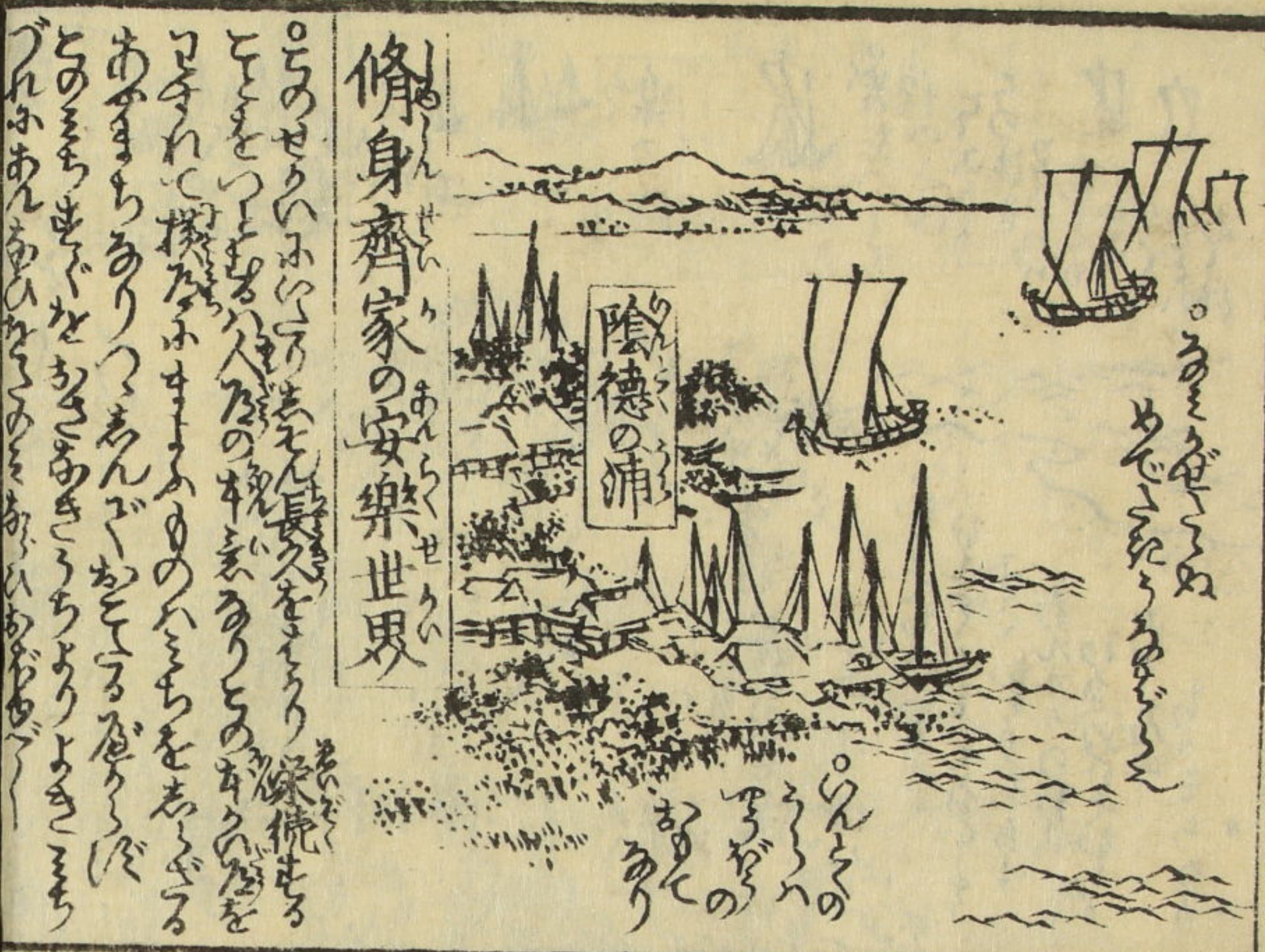
天の道

○この山々のあり
つれ人とのありひそく
まがけんんんのまを
あるとらげあり

めでた

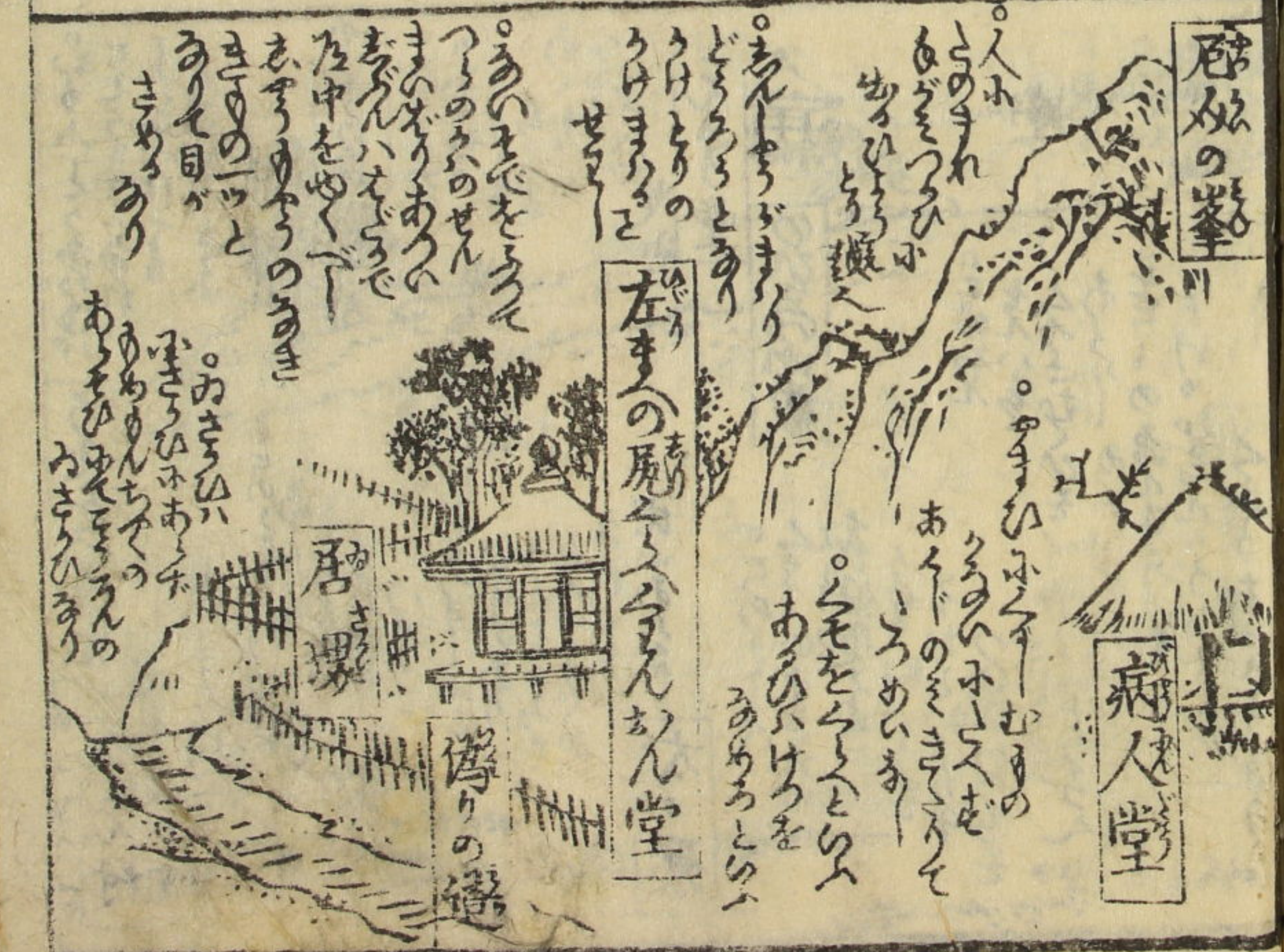
○めづるま
あひ
あひ

○まのまを
あひ
あひ



陰徳の浦

修身齊家の安樂世界
○このせいのふいふ長をま
てをま
あひ
あひ

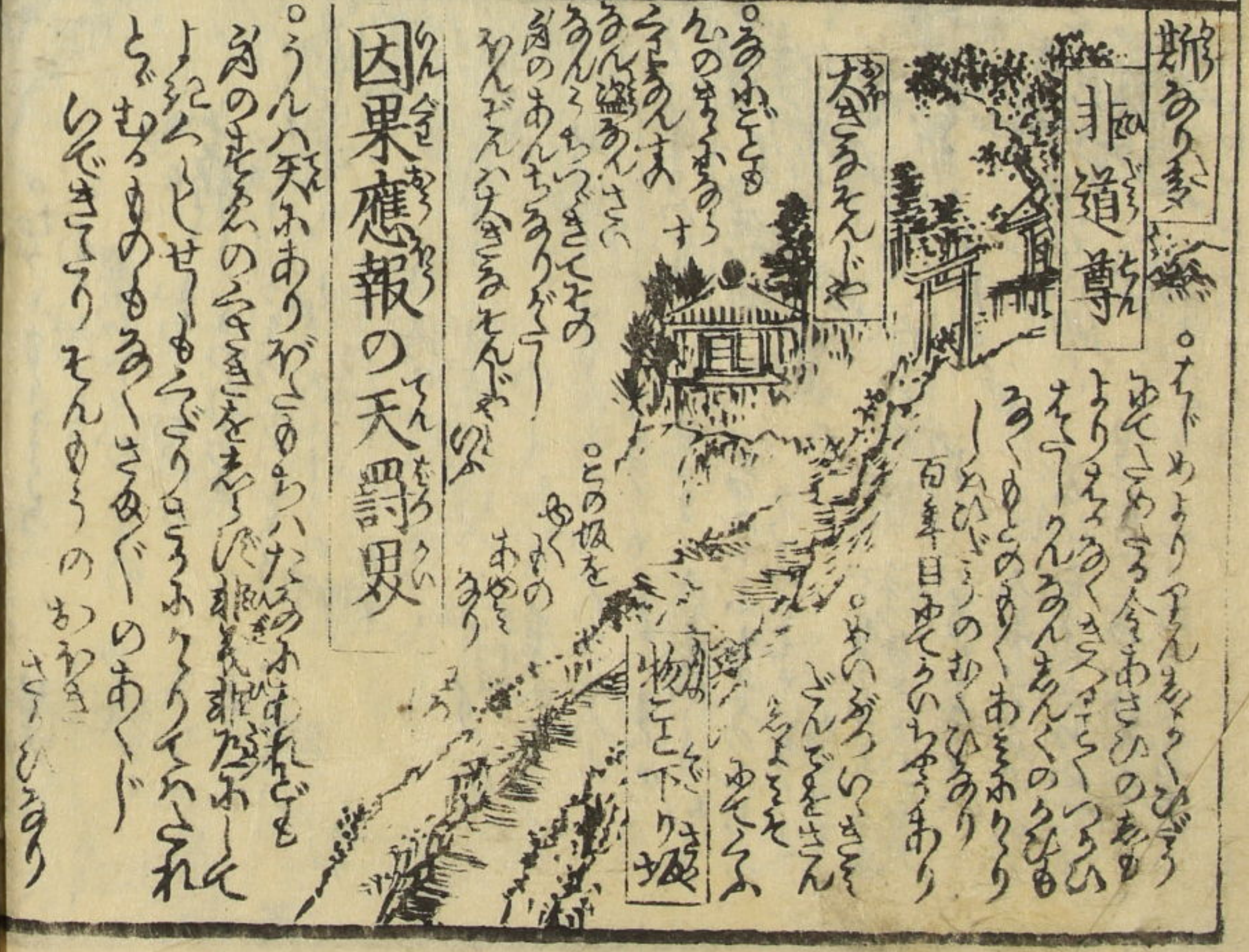


居の巻

病人堂

左まの庵

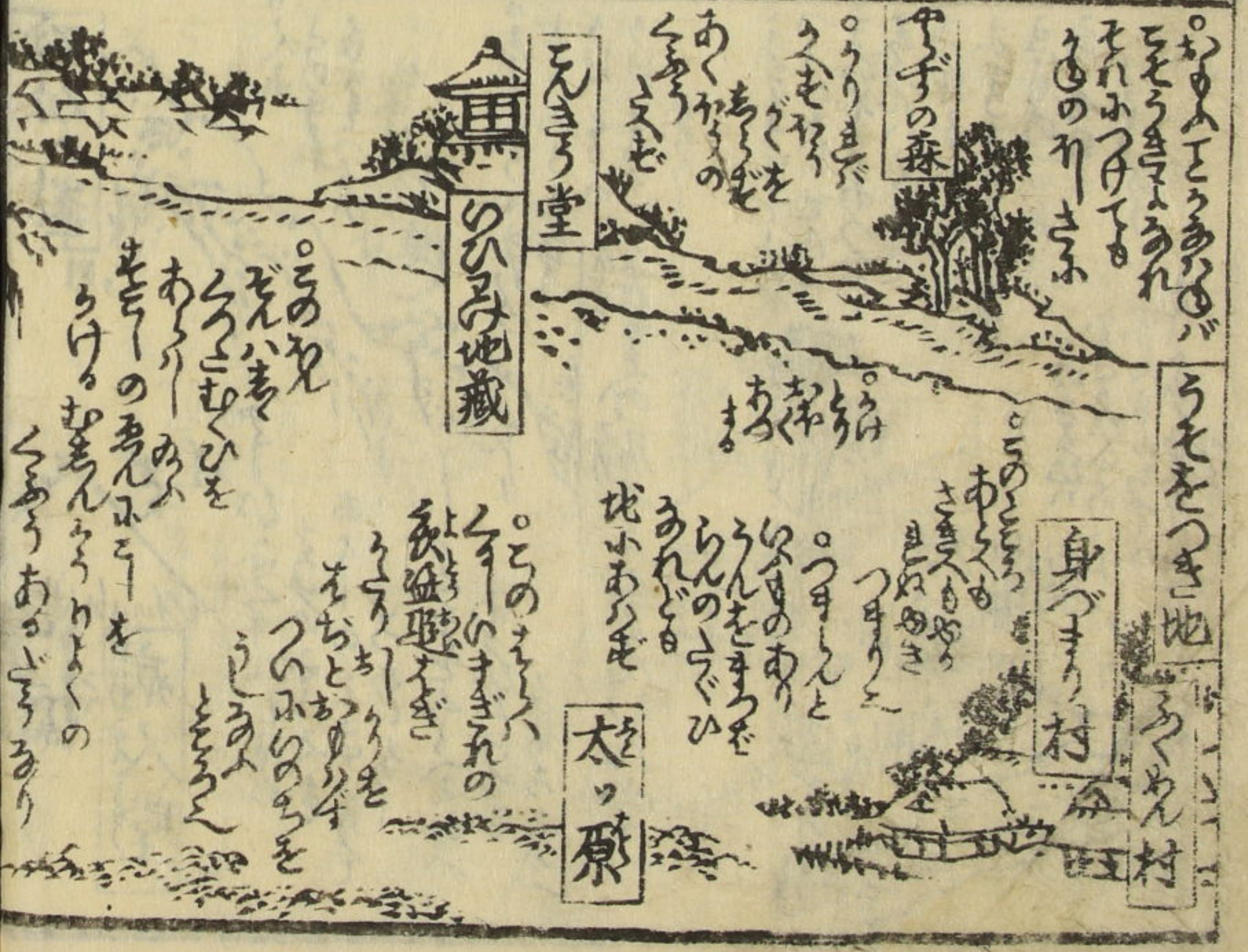
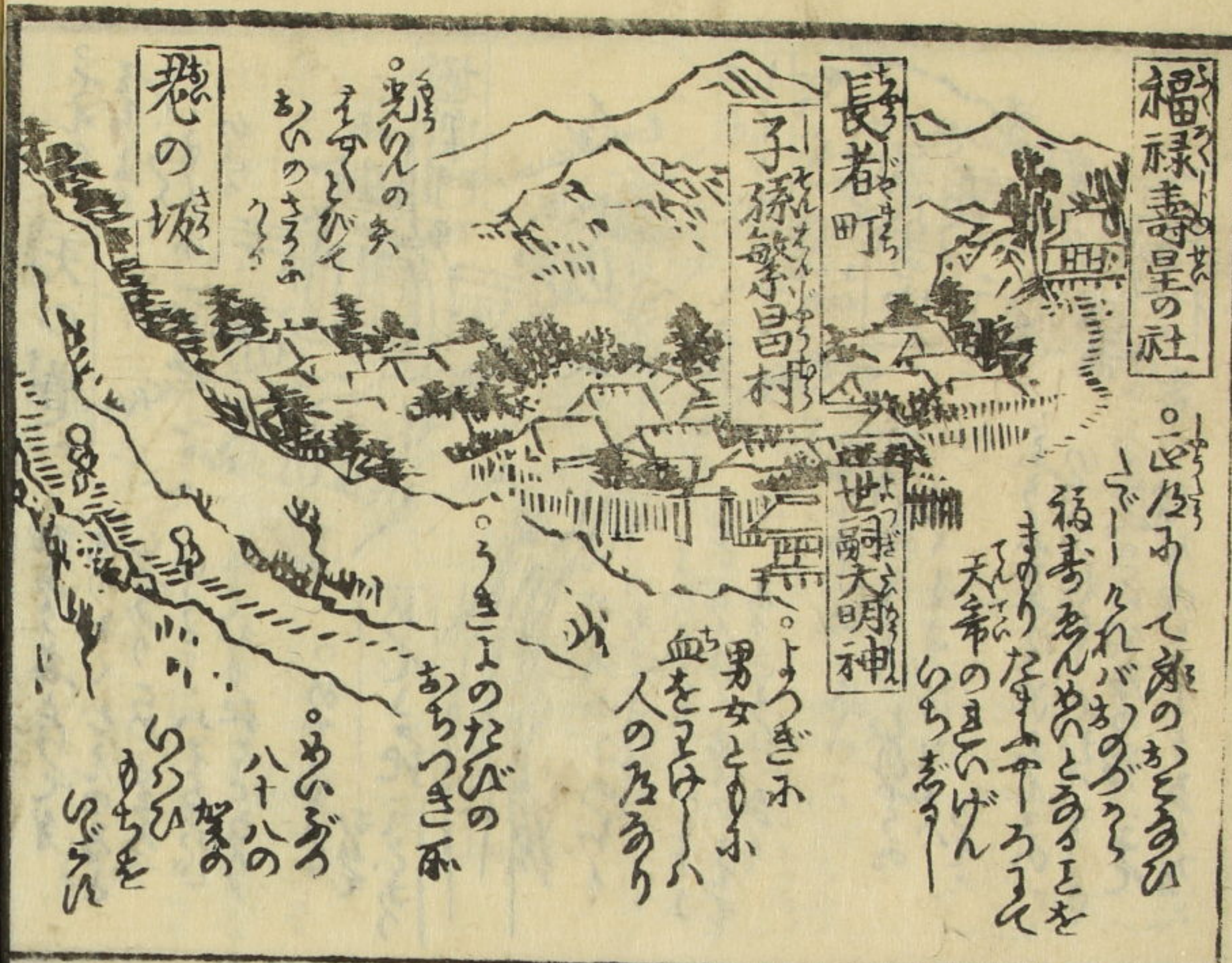
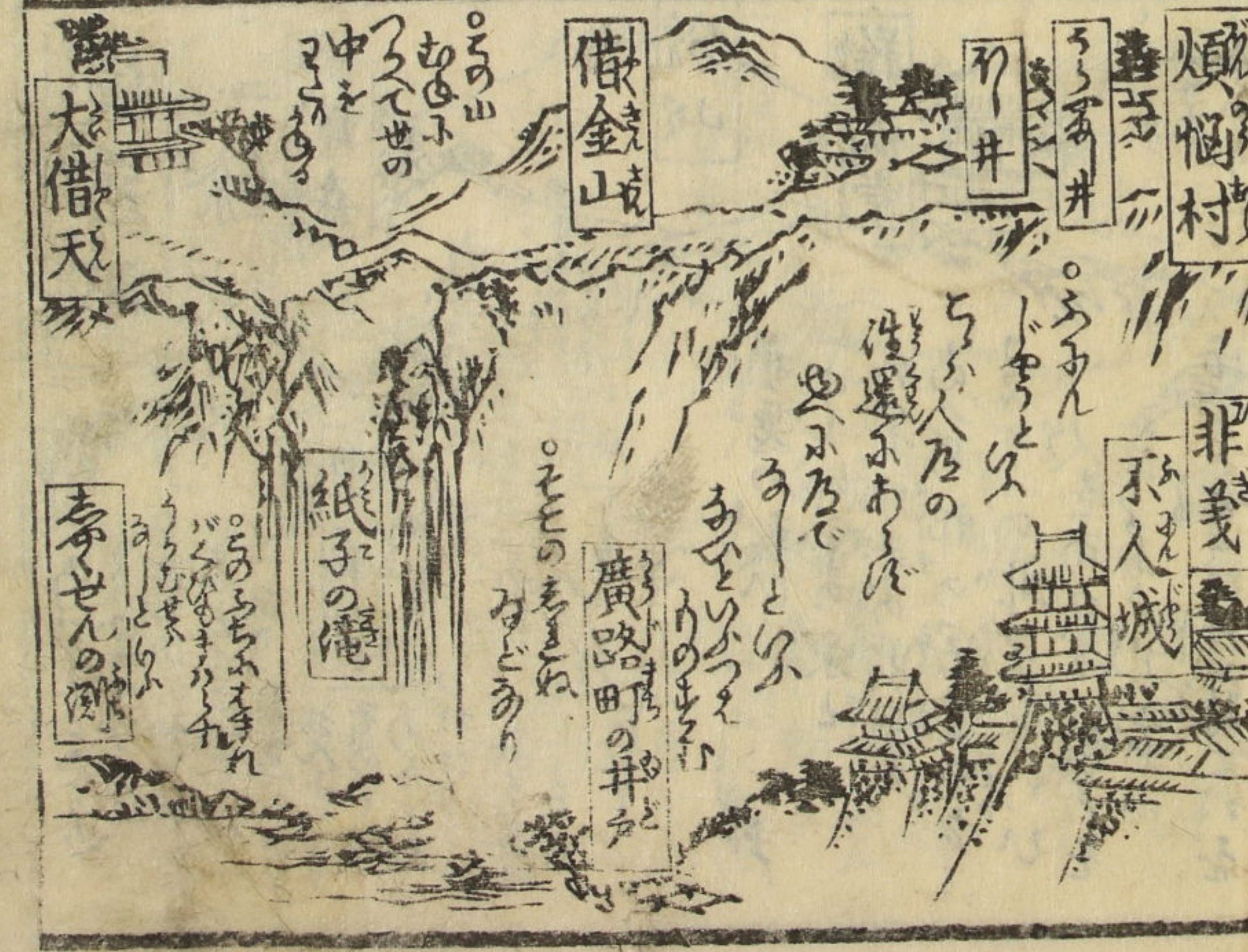
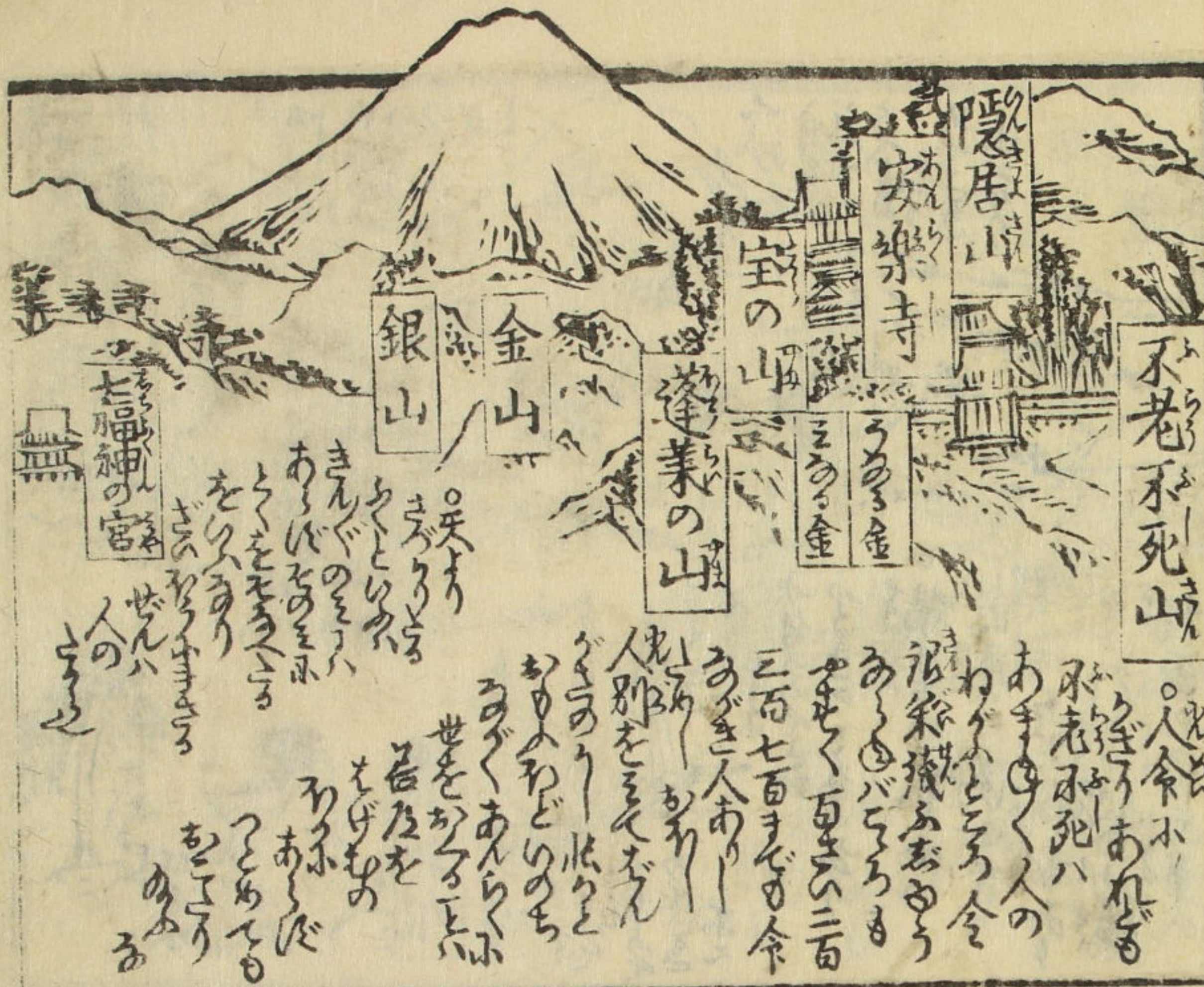
○まのまを
あひ
あひ



因果應報の天罰界

非道尊

因果應報の天罰界
○このまを
あひ
あひ



不老不死山
 人命ハ 強クあれども
 不老不死ハ
 ありて人の
 命ハ長クとも
 不老不死ハ
 ありて人の
 命ハ長クとも
 不老不死ハ
 ありて人の
 命ハ長クとも

安樂寺
 うるまの金
 うるまの金
 うるまの金

宝の山
 金の山
 金の山

金山
 金の山
 金の山

銀山
 銀の山
 銀の山

福祿壽星の社
 長者町
 子孫繁昌村
 世嗣大明神

福祿壽星の社
 長者町
 子孫繁昌村
 世嗣大明神

長者町
 長者町
 長者町

子孫繁昌村
 子孫繁昌村
 子孫繁昌村

世嗣大明神
 世嗣大明神
 世嗣大明神

のひみ地蔵
 のひみ地蔵
 のひみ地蔵

えんま堂
 えんま堂
 えんま堂

大借天
 大借天
 大借天

借金山
 借金山
 借金山

紙子の滝
 紙子の滝
 紙子の滝

廣路町の井
 廣路町の井
 廣路町の井

非義
 非義
 非義

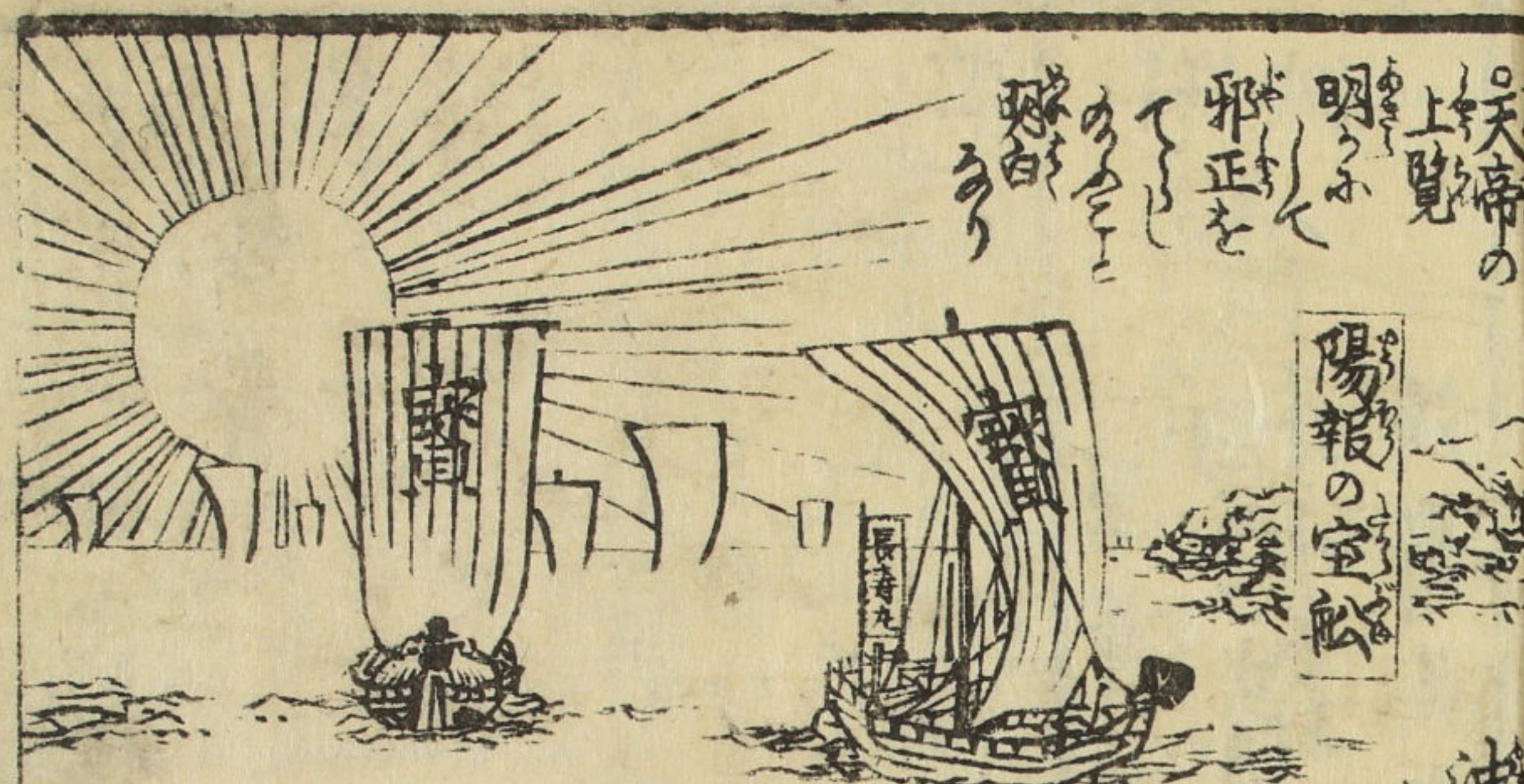
不人城
 不人城
 不人城

身づくり村
 身づくり村
 身づくり村

太ッ原
 太ッ原
 太ッ原

のひみ地蔵
 のひみ地蔵
 のひみ地蔵

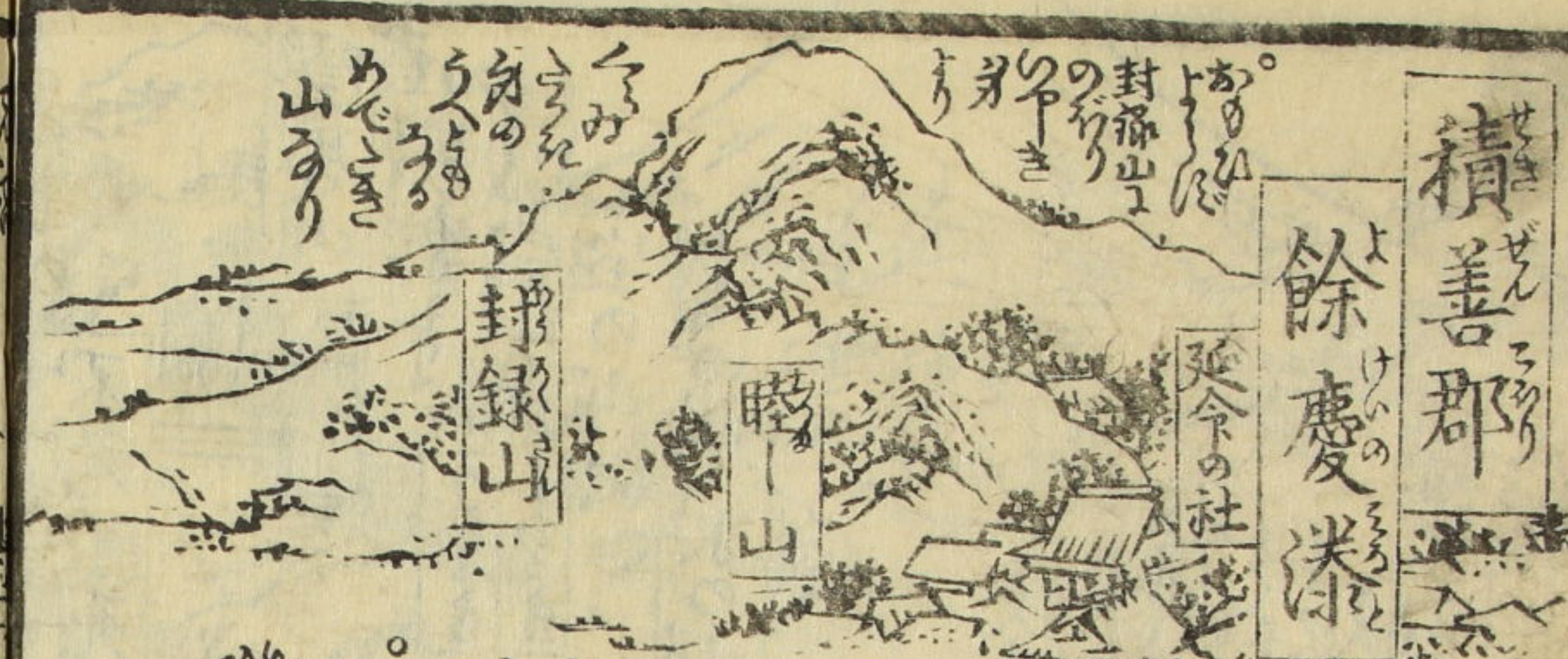
えんま堂
 えんま堂
 えんま堂



天帝の
上覧
明正を
邪正を
のり
のり

陽報の宝船

沖より宝船
あまこし津
子孫水く
鶴の舞
龜の舞
我万が
太平の儀
静ある
餘慶の
目とら
春を
めとら
しとら



積善郡

餘慶漆

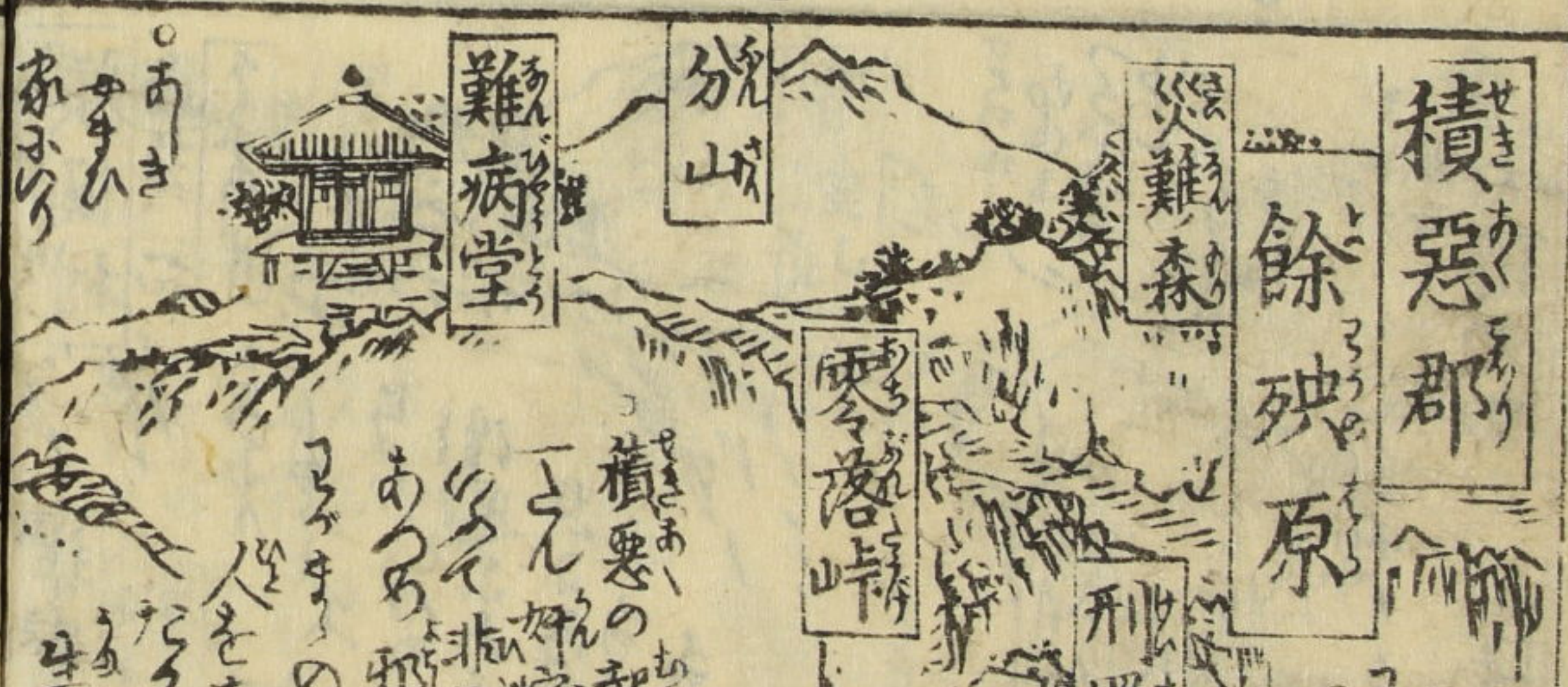
勝山

積善の家少
餘慶の漢小昔の
陰徳らふ陽報あり
善行方便の功德
福壽の海無量の
あまこし津
子孫水く
鶴の舞
龜の舞
我万が
太平の儀
静ある
餘慶の
目とら
春を
めとら
しとら



守銭奴の城跡

見あふ
驕奢小長
親より
金銀を
つらひま
おのの悪あん
多し加ち
財宝むあり
尽て身を産
孫断絶く
跡くもあ
ありのこと
天金のあり
志むあり
あたる



積悪郡

餘殃原

分山

積悪の報ひ
一とん奸富の果
あつた邪の罪責を
人をおをり其家小
生きた子孫これを
刑罰谷
あつた
死をある
あつた

世に徳を愛得て官小を以て
 高賈の四民の中にあつた農工
 身を嘗て心小隙あつた農
 業をつとむる百姓は苦
 の勞にあつた五穀は人世
 片時も多とせうあつた空
 々の米を作ると年の勞
 あつたに得たては是を
 居るははて美食小
 物体あり心を甘て困
 恩のありて死をさるる



世を
 代探
 小回
 行房
 英泉画

一筆算主人戯作

一筆算戯作
 訓貧福悟道捷徑全冊
 漢齋英泉画

この冊子の善悪道中記の二へんあ
 男女親ふの境小惑ふのを教
 諭を不名所圖會小成の滑稽洒落
 を旨としてかくはりたるさうしり

古今
 秀句
 落しは法

新刻
 繪入
 冊
 この冊子に古今絶倫の秀句を採りて
 新刊の落しは法とて元より勲
 徳意のよくふかしく初巻の成り
 美す小妙に採るるに合ふて
 小おぬいかりんきと

人間一生
 獨案内
 善悪道中記

一筆算戯作
 漢齋英泉画
 人間の一生と道中記
 あぞく子作流の教訓
 本なき勲若徳意と
 とかせし滑稽者のよの

成田銚子
 鹿嶋香取
 道中獨案内

一枚摺
 袋入
 下巻の國十郡と教と成田不勲系
 佐てしはゆき教者か
 中巻の亦海軍教と
 たびよの巻乃

東都書肆
 京橋銀座四丁目
 頂恩堂本
 助梓

